女學雜誌

第二百二十一號目次

社説　歸る人、迎ふる人○詩仙
論説　在布哇受洗の始末(安藤太郎)○慈善事業に對する婦人の心得(獨逸博士スピンチル氏)
批評　能勢榮氏學校管理術○安寧策○議員列傳○報知新聞○江湖新聞○歸省
雜録　靜女塾主平尾光子女史を訪ふ○人情○さびしさ○コレラの好む所○今は採集の時なり○女性の言葉つき○吉田松陰先生の女論○懸賞答文○鶯シャレを言ふ○慈善事業
小説　うき世(八)
寄書　思ひ得たることゝも
開書　被撰失撰の諸君に參らす○交詢
時事　火上獄中の默念○此度びの撰擧○市中の君子○明日○非草非木○何の日清まん○短歌行○田口卯吉君羞がなし○托鉢○米國女子撰擧權擴張會○パットレル夫人○卒業女學生○廢娼記事
女報　御旅行○大井幸子○神戸英和女學校○京神間之女學校○スタンレー氏の佳偶○難波佛教婦人會○ブライト、ルーカス夫人○其他數件

A great city is a great solitude (Bacon).

女學雜誌社通信員約則

權利

一　通信員は女學雜誌を毎號無代價にて落手す。

二　通信員は定時報告の餘分に爲したる報告に對し若干の謝金を受く、尙は定時の報告さ云へども格外の價値ある者若くは非常の骨を折りたる者は特に謝金を受く。

義務

一　通信員は毎週一回ハガキにて、毎月一回郵書にて、其在地の景況を報告すべし。

二　報告すべき景況は、主として婦女子に關する事を旨さすれども、凡そ教育、慈善、美術、文學、品行、の事若くは奇異例外の出來事は總べて女學雜誌の所望するもの也。

三　寓所を變へたる時、又は引つゞき不在の節は其旨報告すべし。

四　至急を要する件は電報にて飛信すべし電報料は直ちに返却すべし。

五　總べて報告書の表面には「通信」の二字を朱記すべし

右有志の人は履歴書を添え申込あるべし。

七月十二日發兌　第二百廿一號　一冊定價六錢

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌

第二百二十一號目次

社說
論說
批評
雜錄
小說
寄書
開書
時事
女報

歸る人、迎ふる人○詩仙

在布哇受洗の始末（安藤太郎）○慈善事業に對する婦人の心得（獨逸博士スピンチル氏）

能勢榮氏學校管理術○安寧策○議員列傳○報知新聞○江湖新聞○歸省

靜女塾主平尾光子女史を訪ふ○人情○さびしさ○コレラの好む所○今は採集の時なり○女性の言葉つき○吉田松蔭先生の女論○懸賞答文○鶯シャレを言ふ○慈善事業

うき世（八）

思ひ得たることゞも

被撰失撰の諸君に參らす○交詢

火上獄中の默念○此度びの撰擧○市中の君子○明日○非草非木○何の日清まん○短歌行○田口卯吉君恙がなし○托鉢○米國女子撰擧權擴張會○パットレル夫人○卒業女學生○廢娼記事

御旅行○大井幸子○神戸英和女學校○京神間之女學校○スタンレー氏の佳偶○難波佛敎婦人會○ブライト、ルーカス夫人○其他數件

A great city is a great solitude (Bacon).

女學雜誌社通信員約則

權利

一 通信員は女學雜誌を每號無代價にて落手す。

二 通信員は定時報告の餘分に爲したる報告に對し若干の謝金を受く、尙ほ定時の報告と云へども格外の價値ある者若くは非常の骨を折りたる者は特に謝金を受く。

義務

一 通信員は每週一回ハがきにて、每月一回郵書にて、其在地の景況を報告すべし。

二 報告すべき景況は、主として婦女子に關する事を旨とすれども、凡そ敎育、慈善、美術、文學、篤行、の事若くは奇巽例外の出來事は總べて女學雜誌の所望するもの也。

三 宿所を變へたる時、又は引つゞき不在の節は其旨報告すべし。

四 至急を要する件は電報にて發信すべし電報料は直ちに返却すべし。

五 總べて報告書の表面には「通信」の二字を朱記すべし

右有志の人は履歷書を添え申込あるべし。

七月二十日發兌　第二百廿一號　一冊定價六錢

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 220. July, 5th. 1890.

EDITORIAL:—Girls students Going Home, and their Mothers. The Post.

LEADING ARTICLES: Mr. Ando's Account of His Own Conversion. Woman's Philanthropy. (Dr. Spinner)

CRITICAL NOTES:—Mr. N[illegible]'s S[illegible], [illegible]ment. How to maintain National Peace. "The Hochi Shimbun." "The K[illegible]" "K[illegible]."

MISCELLANEOUS: An Interview with Mrs. Hirawo of "Seijogaku" School. Humanity. The Cause of the Epidemic in Nagasaki. Now is the time for making Collections. Ladies Vocabulary. Mr. Yoshida on "the Woman Question." The Prize Essay. The Nightingale's W[illegible]. A Visit to the Charity Hospital.

NOVEL: "Ukiyo."

OPEN LETTERS.

CONTRIBUTED ARTICLES.

NOTES AND NEWS.

CONCERNING WOMEN.

第二百二十號目次

社説　國に[illegible]家の如し〇[illegible]女學校目下の欠點(下)

論説　[illegible]論(上)

批評　浮世[illegible]〇一[illegible]教育[illegible]附録(〇[illegible]新聞[illegible]男兒〇一[illegible]〇[illegible]人〇トルストイ伯の[illegible]

雜録　新島[illegible]人を訪ふ(…山人)、[illegible]〇[illegible]〇[illegible]は子供が文字[illegible]〇[illegible]婦人の傳[illegible]文〇さるの心[illegible]

小説　うきよ(七)

寄書　[illegible]思ひ出たるまゝ〇みに[illegible]

時事　七月五日[illegible]〇[illegible]〇[illegible]女學[illegible]〇[illegible]日本婦人

女學　[illegible]〇[illegible]〇[illegible]

Women in Japan.

I.

H. I. M. the Empress has [illegible] herself to give 500 yen a [illegible] the [illegible] of the poor.

Silk worm raising has been carried on this year as usual at the A[illegible] Palace under the superintendence of Her Majesty, and it is said to be a great success.

II.

Mrs. L[illegible] returned to America on the 24th, on leave of absence.

III.

1. The "S[illegible] Jogakkō" and the "[illegible] Seminary" will henceforth unite and will be called "Joshi Gakuin."

2. The "Meiji Jogakkō" will move from its present site at Iidamachi and will build on a lot in Kawai rokuban cho. Arrangements are being made to change the boarding establishment into the much talked of cottage plan.

3. The two principle mission schools for girls respectively in Sendai and Osaka have concluded to send their post graduate pupils to Kobe, there to pursue their studies with greater convenience and more efficiency.

4. The Industrial school at Tsukiji is preparing to add to its branches of work and to enlarge its buildings at the same time.

Every body connected with the work of Woman's education is aware of a reaction that has set in of late in regard to public interest in girls education especially the foreign element of it. This is greatly owing to the ramphant conservative spirit. However we are of opinion that the prejudice will in no wise last the Parliament will be opened in November, the much disturbed public mind will regain its equilibrium and all will yet be well.

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌 第二百二十一號 明治二十三年七月十二日發兌

社説

歸る人、迎ふる人

夏休みとなりぬ。女學生は夫々故郷に歸らるゝなるべし。去年の夏古里を離れてより、月に一度二度の便りはしつれど、慕はしきこと日毎夜毎に忘るゝ暇なし。母は暑きにつれ寒きにつれ娘の事を言ひ出さぬ時なく、今ごろは何如にして居るらんとは口ぐせとなりぬ、父は左程言葉には現はさねど、言はざる所ろ是れ無限の情にして、母の口ぐせを嘲ける所ろ愛思夫れ幾千ぞや。而して女學生の校舎に在るや亦之に異なることなし、兀々として學ぶとき只だ僅かに忘るゝのみ、朝たに起出る夢未だ覺めぬときは、父母の傍らに添寢すと思ひ、迷ふて甘ゆることあり、夕べに鳥歸り、西天の紅くなる比は、家の景色宛然として眼前に現はれ、門前の柳、屋后の山、青々として我を招くと見ゆ、夫れ如此き慕念愛思の間だに一年を過し、今や一歳の學を積みて快ちよく歸省せんとす、其樂しみ喩ふるに物あるべからず。況んや事ありて數年歸らざりし人、若くは本年全科の業を卒へて錦を飾るの人は、其歸省のうれしきこと、快ちよきこと、更に一層にして、天地悉とく春とあれるも、尚ほ今日の愉快には及ぶべくもあらじ。

此際吾人は双方に一言したきことあり。女學生よ、凡そ樂しきこと幾つもありと云へど、愛する人の爲に力を盡すほど樂しみの大ひなるはあるまじ、特に女の情己が愛するものありと思ふこと、及び其の愛する者の爲に何事をか爲したりと思ふことは、全心を生き返らせて魂しひの喜びに飛び立つ心地のする者あり、故に父母同胞に對し胸中限りなきの愛を現はして、其喜びの顏を見たる時の如く樂しきこと多くあるまじ、然るに諸君は久しく家を離れ、朝夕其家族の爲に力を盡したることなし、之れ何如斗りの不幸ぞや、左れど今は久し振りにて家に歸り、一と月二た月が程は絶へず其愛者と同居せらるゝ也、諸君が其愛者の爲に働らき、愛者を喜ばせて且つ自らも喜こび、兼て理想したるホームの樂しみに沐浴するは即はち今の時なり故に諸君は拭き掃除より臺所の仕事に至るまで、凡そ出來る丈けの事は爲して滿胸の喜びを現はし、いそ〳〵として立働き玉へ、之れ久しく家族の爲に盡力し得ざりしの憾みを今ま取かへすものにて、亦た父母一歳の勞を慰さめ、更に自から

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

の樂しみを受くる者也。然らずして万事惆悵し、朝も學校に居りし時より遅く迄て眠り、夜も時に神經を疲かせて寢るなどの事ありては、第一勿論なくして相濟まぬのみならず、斯ては短かき日間に父母に出來る丈けの喜びを呈するとも出來ず、亦自らの爲にも不快の基ひとなるべし。

次に、猶世間の人に告げん、其娘が何如なる人物になりたるかと心配し、万事の容姿に氣を付けて極めて批評的に之を辨除せらるゝと、餘の惜としこわらんがなりとて亦心得べきことなり、凡そ大勢の傾に変はるときは實はいと々しくなることなり、何如に惜しみ厚き人も多少口煩は免れがたき者ゆへ必らずしも斯る外形の點にのみ注意することなく、今少し深くして其の事全く終りし上ろ、相談にすゝみ作らつくしと娘の學べる處、平生の性格の點など問ひ質し、其の家を出るの前と今と、思想の何如ほどに變はりしかを辨除あるべし、容姿も大切なれど心掛だに美しくば容姿は從に美しくなるべしたゞ衣服によりて容姿とゝのふとも、心掛宜しからずば從に飾ばしからず、故に諸氏は先づ娘の思想、性格、を聞たゞし前と前年に比較して娘の進步何如ほどなるかを試驗あるべし、若し心掛惡しくあり居らば之れ大變の事なり。

詩仙

世の騒ぎ稍や鎮まり、志士松陰樹影に暑を消して、坐ろに前途の運命を憂はんとす、今に於て詩を論ずるも亦た靜考沈思の一材料たらん。

(上) 詩とは何如なるものぞ

詩は文章の一體なり。人性情を備えて天地間に立つ、思ふ所ろ感ずる所ろなきを得ず、其發して文字に現はるゝものを文章と云ふ。文章とは人の性情の現象なり。而して文章の體に二あり、之を論するに代調自づから整ひ、韻律節奏を奏するが如きもの之を律文と云ひ、其否らざるものを散文と云ふ、律文は所云る詩なり。左れば詩と散文との異なる所ろは其文章の韻、調和するとせざるとに在り、詩の文章は調和す故に之を歌ふを得べし、散文の文章は否らず故に之を歌ふと極めて難し。必竟するに、差別する所ろは其韻調にあり、外に大差する所ろあるを見ざる也。攜堂云く、詩は本と文中の一體其詠嘆の體を用て詞を選り語を措くと稍や同じからざる耳と韓愈と云ふべし。

詩、文、の差別如斯、僅所些々のみ、故に詩を論ぜんよりは先文章

を總論するに若かざるに似たり。左れど、所謂る韻調の和すると和せざると、詠歌することを得ると得ざるとの有無は、元と大ひなる別異の本元に存するなるが故に起生す、之れ甚だ研窮を要するの事たる也。

ピサゴラス以來、天地の眞相を推論して之を大調和にありと爲すもの多し、吾人平素亦た之に同意す。夫れ天地及び人世の眞相は蓋し調和なるべし、其窮極する所ろも亦調和にあるべし、故に宇宙万景の進向する所ろも亦た大調和に歸し趣むくにあるべし。之を以て、理學者は總べての理學の元則を唯一になさんとし、哲學者は總べての万法天則を一元に歸せんとし、宗教論者は天地間の主宰を獨一の上帝に在りとなさんとし、社會學者は万國遂に統一共和國とならんとを信じ、道德家は四海皆な同胞となるとを得べしと教ゆ。皆な大調和ならんとを望み且つ待つもの也。而して人は人と相爭そひ夕朝旦暮相別れずと云ふとなし、然れども其本質は愛なり、其理想は愛なり、其尤とも尊とむ所も亦た愛なり、愛は即はち調和にして調和を願ひ樂しむの天質即はち愛たるのみ。人類の本性素と調和にあり、故に何如なる人類も皆な調和の現象を好む、音樂を好むは之が爲めなり、詩歌を好むは之が爲めなり、ホームを好むは之が爲め也、天下太平を慕ふは之が爲めなり。彼等の本性斯の如し、故に其日常の行爲現はれて千差万別の異端騷擾となるも、其の遂に歸せんとを欲する所のものは調和にして而して其の果して遂に歸決する所ろ亦調和にある也。是を以て世を騷がす所の改革者も望む所は太平にあり、戰亂鬪爭の大修羅も眞の極樂地を得んが爲めに起る。古來第一の改革者は叫びて云く、吾は劍を出さんが爲め、父母夫婦昆弟を相反かせんが爲め、世に大騷亂を起させんが爲めに來れりと、而して彼が宣言する所ろの福音は實に平和の道にある也。波濤動くが故に水平らかなり、風氣走るが故に天靜かなり、蓋し其大に騷ぐものは其の大に安んぜんが爲め也、左れば天地間の事、右往左往、上下反逆を、常にすと云ど雖も遂に大調和に歸せざるとなし、ポープ人類の爲に賦て云く、

天地は見へぬ器關の整のひ動くに左も似たり、
所ろ定めぬ出來事も定めの向きに進むなり、
違ひ反ける不調和も知らぬ調和に趣むけば、
一つ〲の幸なきは總べての幸の爲とこそ知れ、

夫れ天地人世の眞相は大調和にある也、但だ之を被ふの外衣襤褸の如く、切々斷々するの故を以て、人容易く內裏の美を

覰ふ者なし。然れど、其現相は必らずや如此きのみ。故に世界の外貌を皮觀して其の本質を洞察するものは、皆な此の大調和を觀ひ見ずと云ふ者なし。此を以て凡そ事物の最も高、崇高、優美、眞正なる所ろには必らずや此の大調和の光明を發揮す、苟くも物の眞理に分ち入り、事の眞相に昇り登るときに於てには未だ曾て此の光明を見ずと云ふべからず。カーライルの「Heroes and Hero-worship」と云ふもの、即はち是れ也。

然れども此眞相を窺ち得るもの、凡俗の間だに於て少なし、天然は公然として現はれけれども人の心に安らかなく、野の花には常に笑へども人の目は世に困憊し、野に佇立するものには甚く、天國は近づけりと、然れども世にはますます争そひあらんとす、此に於て詩仙の常なきを歎ち、人間の定めなきを怨み、厭世を絶叫して天地を詛呪するものゝでもし。ポーロ云く、万づの物には造られたるの初めより榮光を顯はすと、然れども万人多くは之を悟ることなきなり。人ありゲーテに問ふて云く、秘密中の尤も秘密なるものは何にぞや、ゲーテ答ふらく、公開の秘密（Open Secret）是れ也と。蓋し天地の公開する所ろは人の未だ見ることを得ざる所ろにして、秘密之よりも甚だしきはなし。此に於てか世に大人あり、獨り能く之を洞察明觀して、皆ねく之を天下に指示告白することを要す。

詩仙なるものは即はち其大人の一なり、彼は万人の未だ見得ざる所ろを先見して明らかに之を世上に告白す、即はち彼は一の預言者の如く、亦た一の哲學者の如く、亦た一の大先生の如し。凡そ大人は時の必要によりて上より降生す、天下混亂の時には大王生ず、四方暗黑の時には大學者生ず、万民疑惑する時には預言者生ず、衆生悪く堕落する時には大救主生ず。此等の大人は皆な同性の英雄にして只だ時の必要に應じて其装ひを異にす、詩仙の世に出るもの亦即はち是也。詩仙は即はち大人なり、英雄なり、カーライル謂ふ所ろのヒーロー也。而して彼に於てのヒーローの中の最大最要なるものなり。之を以て其口に發する所ろ皆な詩歌とある。

夫れ天地の現相は調和なり、人世の眞相は調和なり、人心最奥の性情も亦調和なり。詩仙とは即はち其心底最底の調和を以て、天地人世の調和を直覺直感し、一身渾化、不知不識く和して、口に直接所謂を發吟す、即ち其吟ずる所ろ調和の聲ならざるを得ず、調和の聲即詩歌なり、故に詩仙は哲學者が營々汲々として分析解剖するに待ず、其同性を以て直ちに天地間の眞

相を感ず、喩へば虹の暗黑より發して暗黑に入るが如く、日月の東より出でゝ西に落るが如く、其の起發終局は奥妙奥秘なりと云へども、中間明らかに光彩の輝くに似たり。

故に詩仙は凡俗の窺がひ得ざる妙理を發揮顯表するにあり、吾人嘗て黑夜に月を見る、万天星なくして黑き雲漠々墨よりも黑く漆よりも黑し、月弦形にして磨ける銀の如く、月此の黑雲を劉つて獨り光れり、思へらく月の光明は天の奥妙を漏らすものなり、黑雲の后ろの榮光を映じ出すものなりと。又嘗て野の百合の花を見るに其花の美くしきとソロモン榮華を極めたる時の衣にだに優れり、つとめず紡がずして天然の裳衣何等の人工にも勝れたり、而して其地を見れば土は腐れて汚水潤るほひ、岩石冷々として頑くなに散し、土砂何にの味氣もなく混積せり、然れども此の醜くき土中より、彼の百合の花を發生せしめたる也。此に於てか、土の外形美ならずと云へども、中に花を生ずるの美元あるとを知り、黑雲光りなしと云へども、天に光を生ずるの妙素あるとを知れり。夫れ詩仙が世人の爲めに歌ふ所ろは、此の妙素美元の爲めなり、彼は黑き雲の中に光ありと歌ひ、醜くき土の上に花ありと歌ふものなり。故に詩仙は凡衆億兆に超えて、數多の大能力を有す、彼は明らかに天地間奥妙の理を直覺す、之を直覺すると極めて明らかなり、之に感ずると極めて鋭敏なり、之を想像すると極めて隆んなり、之を信ずると極めて熱々なり、而して之を歌ひ之を叫ぶと亦極めて切なり。一言するに彼は天地の大法に悟感し、全身動きて、之を世上に發揚す、終始嚴肅光大にして苟且にも私利私慾の情あるとなし、故を以て能く大法に悟感し亦能く之を發揚する也。テニソン云く、詩仙は愛の愛、憎みの憎み、苦蔑の苦蔑、を以て生れ來り、生命を通し、死を通し、善惡を通し、自己一身を通して、永々遠々の大法則を確認すと、即はち之れ也。

故に詩仙は天地極妙の理、人世終極の則、人間甚深の情を宣言すべきものなり、而して之を宣言するに其自己甚深の性情よりして尤も眞摯なる言語を以て發表す、出でゝ詠歌となると勿論なり。左れば論ずるものは哲學者のみ未だ詩仙にあらず、何んとなれば彼何ほ之を論ず未だ信ずる所ろあらざるが故なり、詩仙とは即はち天然に歌ふもの也、彼の天然に歌ふとを得るは即はち其の既に終極の大調和に到達するとを得たるが爲め也。たゞ夫れ故意に如此くならんとし、始めて如此く製造するものは未だ詩仙にあらず、たゞ一種の詩人たると

を得るのみ。甌北云く、詩之不レ可レ及處、在ニ乎神識超邁一、飄然而來、忽然而去、不レ屑々ニ於彫琢句一、亦不レ屑ニ々鐘心刻骨一、自有ニ天馬行一空不レ可ニ捉摸一之勢上と、亦此意耳。

古人多く詩を論ず、論の方各々異なる、然れども未だ大ひに吾人の謂ふ所ろに違ふものなく、要するに撰力皆な此處に歸一するに似たり。ヲルヅヲルスは云く、詩は總べての智識の氣息なり、精神なりと、即ち万法の精に達するを云ふ。コウンソン云く、詩は永遠無限の者を表はす故に美術中の第一のものなりと、即ち其の天地根底の大法に及達するを云ふ。ラスキン云く、詩は高尚高遠の情を起すべき事物を想像の力によりて言及ぼし思ひ及ぼさしむるものなりと、大意上前に似たり。シユレーゲル云く、詩は、發見し、啓示し、感化するものなりと、即ち未だ見はれざるの妙美を見出して之を宣言し世を化するを云ふ。シエレー云く、詩は世界を蔽へる被衣を取上げ其隠れたる美を顯表するものなりと、即ち吾人の言ふ所ろに同じ。マシウ、アーノルド云く、詩は到底生活の批評の如し、詩の切要ある所以は高遠高大なる意想を實社界に應用し人類何如に生存すべきやの大問題に論及するの一部にありと、之れ詩の特性を言ふものにあらず、然れども其一質を論ずるに於て頗ぶる當を得たり。其他、シスロの詩仙に神氣ありと云ふもの、アリストートルの詩には歴史の及ばざる一層高等の眞理、一層嚴粛の莊重ありと云ふもの、亦殆んど相似たり、蓋し其言ふ所ろ異なると云へども、要するに皆な吾人が論ずる所ろと大差あるなし。

夫れ詩は如此く深淵なるもの也、詩仙の尊きは言ふ迄も無し、彼れ天地の理を直覺す、人世の運命を確信す、人情の眞性を穿明す、言を換ゆれば即ち宗敎的の見識と感覺とに於て圓滿する也。抑そも宗敎とは極めて狹くさき事の謂に非ず、天地人の運命を究むるよ即ち宗敎の極にして之に感ずるは即ち宗敎の情なり。釋迦も一の見識あり、孔子も一の見識あり、クリストも亦た一の見識あり、其見識相異なると云へども皆な天地人の極致を發表せるにあらざるはなし、只だ其の到るとの淺き深き高き卑しきに由りて眞僞正否の差別を生じ來るもの也、然れども彼等も宗敎の情なくんば之に感ずる能はず、宗敎の考へなくんば之を論ずる能はざりし也。必竟宗敎とは世法大則の實相を窺ひ得んとするの感情思想に原づく、此他に一種別態の宗敎あるにあらざる也、宗敎とは即ち俗世凡界の解釋を爲し又常者常人の運命を指示するに過ぎざる

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

也。此に於てか詩仙は一種の宗教家なりと云ふべし、好し所云る宗教家にあらずとするも必らずや宗教的ならざるを得ず、宗教を離るゝの詩に真大の詩なし。

英國に在ては、スペンサー、ドライデン、ポープ、グレー、ゴールドスミス、クーパー、バルンス、コレリッヂ、スカット、カムプベル、ムーア、バイロン、シエレー、キーツの詩。日耳曼に在てはクロプストック、レッシング、シーレル、アーランド、ルッケルト、ハインの詩。伊太利に在ては、ヒリカシア、アルフハイエリ、マンゾン、レヲパルヂの詩。佛蘭西に在ては、ラシーン、ボイロウ、ボルテア、チエシア、ベランゲル、ラマルテン、ムッセット、ビクトルユゴの詩、或は華麗、或は細巧、或は深刻、或は沈痛、或は可憐罪なき、或は雄壯厚大、或は穿鑿直截なる、一々優る所ろ多し、然れども獨り、ダンテー、シエクスピア、ミルトン、ヲッヲルス、モリエル、ゲーテを別にして之を其一階高段の地に置く所以のものは、所云る宗教的なると否らざると、其の最高最大の理に觸れ得たると得ざるとの差あるが爲めのみ。

吾人此に至りて、詩は何故に詠はるべき乎、詠ふとの何故に重大なる乎の理を知り、亦た詩仙の當に何如にあるべく、詩歌の當に何如にあるべき乎を知れり。而して后ち我國今日の詩歌を顧慮し來れば、慨歎多々止む時なし。

論説

在布哇受洗の始末（上）

安藤太郎君演述

私が今日皆樣の御耳を煩はして申上げ樣といふ話は私が先年布哇國に於て「キリスト」信者に成りました次第であり升元より近來は世間に「キリスト」信者が隨分澤山にあり升から私如きが信者に成りましたとて格別珍敷もない譯であり升がしかし私を善く御承知の御方はあの男が「キリスト」信者に成つたとは實に驚き入つた次第だ何んでも職掌上一時の方便か左なくば世間にまゝある不平か又は物好きから宗教を玩弄するの類であらふなどゝ惡口を御きゝになる人達も隨分ありますし又是迄世間一般の無神論者に「キリスト」教を說き升と其教理を善くも聞きませんで反對論を唱へ升族々が誠に善く私が未信者の時と同感であり升から是や彼やに付何か人樣の御參考にもと存じ一と通り御話し致しましよふ元來私は是ぞと申學問も何もありませんが年が年ですから見まね聞かぢりて漢洋哲學の小理屈は隨分共に腦髓に染み込んで居り升上に品

行の一修に至りましても肉體の慾情には兎角束縛を蹴り勝ちにて克己復禮などの嗜みは更に無之人物でしたから宗教類は一切不得意であり升内就中「キリスト」教は極々嫌でありました何故又そふ極嫌でしたかと申に種々原由もあり升が其重なる一は私は是迄久敷く海外に居りましたが其際歐米人が動ともすれば我々亞細亞人を指して偶像宗の人民と稱し自分達を「キリスト」教の國民と唱へ升處其實彼等の所謂偶像宗とは野蠻の異名で「キリスト」教とは開化の別號であり升から何分にも小癪に障つて溜りません殊に御承知の通り歐米人と申した處が中間には金や智恵こそ我々より澤山ありましても道徳の點に至りましては隨分我々の眼にも甚しいと見ゆる者もあり升のに夫等が無闇に「キリスト」〳〵と唱へ升から愈益「キリスト」教が嫌に成りまして後には彼等より足下の宗旨は何んだと尋ね升と何やら向ふ面が張り度成りまして平常不沙汰な佛法を擔き出して拙者は真宗と申一派の信者であるなど丶返答して矢たらに佛徳を稱揚致した事が毎々ありました右の次第ですから宣教師等より宗教の勸めなどに與かり升のは惡寒の出るほど嫌でありまして一度でも勸をした人には最早二度と再び面會致しませんでした今から考へて見升と實に可笑しくあり升が凡そ文明の人間世界に何が不幸だと申して宣教師ほど不幸至極な生涯はあり升まいと存じた位ですから餘は大概御推察が出來ましよふ然るに斯る耶蘇嫌ひの私が如何なる次第より公然外國の寺院に於て洗禮を受け信者の一人と成りましたかと申に御承知の通り私には明治十九年布哇在勤の總領事を拜命いたし同地に赴き三ヶ年半餘も滯在致して居りましたが扨私の參りました頃にも既に我國の出稼人は三千人程も居りまして其行狀はどふだと申に男子は飲酒に溺れ博奕に耽り又女子は種々の亂りがましき所行を致し行々は御國の御外聞にも相成る樣な勢も見えまして何分捨置き難くありましたから或は說諭を致したり又は布告を出したりして種々取締向に着手致して見ました處惡風は愈益增長致しまして如何とも致し方なく當惑を極めて居りました其の折柄米國桑港より基督宣教師で美山貫一と申人が參られまして數千人の出稼人の間を處々方々と駈け廻り熱心に風俗矯正の爲め說教致しました處が博奕打ちは骨子を投げ出し酒飲みは「コップ」を打ち毀すなど不良の者共が一時に悔ひ改めまして其當坐は領事館の手數も餘程減りました位ですから流石耶蘇嫌ひの私も是には實に辟易しまして此れ程迄にも「キリスト」教

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

と申者は風俗矯正に効能の有る物か成程愚民には至極宜しい者だと始めて注意する氣に成りました即ち是が私の「キリスト」信者に成りました原因でありました乍併此時はまだ俗に申す賛成者丈けの事で信仰は扨措き聖書さへも調べる氣が出ませんでしたが右の美山氏も一と説敎して直に桑港に歸りました然るに其儘捨置いた日には所謂一日之を暖めて十日之を冷やすの譬で又候以前通りの亂暴に成り升は必定ですから何卒して不絶人民等に説敎致させ十分に取締りの道を立たいと存じ其筋の人々とも相談致しまして再び美山氏夫婦其他の宣敎師を米國より招き愈布哇の都「ホノル、」へ日本人の基督敎會堂を取立ました處そふ成つて見ると不思議な物で美山氏が如何程説敎が上手でも落語や軍談と違ひまして根が銘々の好きな酒だの博奕だのを止めろと申御談義の事ですから後には聞手も自然足が遠くなる樣子に見えましたゆへ是では成らぬと存じ私には先達と相成り毎安息日には務めて會堂に出席致し説敎聽聞に及びましたが云はゞほんの御附合一遍の事ですから何分にも退屈至極でありました去り迚私が中途で止めましたら夫れこそ聞手に差響きを起し升は必定ですから此れには甚當惑致しました此折思ひ當りましたは善く是まで我々が歐米士君子中宗敎に熱心なる人を見ますと彼は政略だの是は虛喝だのと口癖に申した者でありましたが信者と申名目丈で濟ませる事ならイザ不知信者の義務を滿足に盡し升には其人が眞面目でなければ決して出來る者でないと申事を發明致しました扨此困難の場合に際し段々考へて見ました處是迄は例の怪力亂神を不語だの佛は夷狄の一法だのと申儒者理屈や又は歐洲の進化主義に化せられて所謂食はず嫌ひで新約全書一遍の素讀も致さず唯一概に宗敎と云へば不問に措きましたが右は我ながら甚以て偏屈の至りで又風俗改良には至極結構なる者と氣が付きながら自身には更に之を研究せずして唯他人にのみ無闇に勸めるのも甚謂はれなき次第何ぞと申すと愚民々々と一と口に申し升けれど私は其愚民と如何程の相異があり升か僅に縱文字横文字の數を少々ばかり餘計に心得て居る位の事にて善々穿鑿致したら其愚民殿に恥入るべき事柄が幾許あり升か分りません殊に愚民どころか歐米文明諸國に於て上は王公より下庶人に至る迄十字架の下に誰一人として膝折り屈め禮拜致さぬ者はありません尤も是は宗敎上から出た一遍の風俗丈けのことだと見ました處が彼等の内世界に何人と指を屈する立派な學者大人達か熱心に尊信して居

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

り升ではないか又其上に文明諸國の歴史の根原も詩文の原由も法律の精神も就中道德の基本と云ふも盡く舊新兩約書より出たる趣は爭ひ難き事實で何共以て不思議千万なる書物であり升から私共當も泰西の文明開化を學び升る以上は此書物を是非共一と通りは調べて見ないでは相成るまいと存じ付きましたからそこで漸く馬太傳の一章からポツ〱讀み始めましたが先づ第一に耶蘇の系圖の片假名の澤山なるには頗る閉口致しましたるに續て「ヨセフ」の夢物語から東方の博士が星に誘れて救主の降誕を尋ねに出掛けるなどの處は漢土古代の歴史中創業の天子などの降誕には板行で押したよふな極り文句に誠に善く似て居り升から成程小し氣の利いた人間はいやがる筈だと考へながら先づ〱辛抱致して段々讀んで參り升と最早堪忍袋の緒が切れましたは耶蘇が舟に乘り後れて濱の上を步み又は五つのパンを以て五千人を養つたなどの奇蹟で迚も聖書を我慢にも手に取る氣にならなく成りました實に其時嘆息致しましたは嗚呼惜しい事だもし此の馬鹿げた奇蹟さへ無ければ孰も修身齊家に必要なる敎理の事ゆへ如何な私でも一と通は素讀も出來そふな者を扨も〱と一時は總て中絶致しましたが去り迚是まで研究致そふと決心したに半途で止め升のは何共殘念でありますし又一つには半分職掌とも可申場合に成つても居り升から種々勘考致した上で米人の或る宣敎師に事の次第を話しまして聖書を讀む氣に成るに何か善き書物はあるまいかと尋ねましたら無名氏作で救魂の理論とでも申しますか英語では(Phrlosophy of the plan of salvation)と云ふ一小册を貸して吳れました。（未完）

慈善事業に對する婦人の心得

六月廿五日東京基督教青年會館に於てスピンチル氏の演說せられたるを三並良氏が譯述されたるもの〻筆記なり。

今日慈善事業に就て御話しを仕なければならん樣になつたのは、大概皆樣も御承知で御座いませう。　けれ共之れは今の時に於て最も必要な事で御座いまするから、皆樣の御存知であるにも拘はらず私が此處で御話しをする事になつたので御座います。

今日我々が此の東京の有樣を見ても、又日本全國に就て考へても、貧に餓へて死ぬる樣な人々が澤山あるのでありまする。此の人々は何人であるかと云へば皆貴婦人方の兄弟姉妹であるが、其れ等の人々が斯くの如き不幸に陷つて居るのは眞に氣の毒なる事でありまする。旣に貴婦人方の兄弟姉妹が斯く氣の毒なる境遇に陷つて居るのであるから、何人と云へども之を救ふの途を考へなければならんのである。乍併如何に之を考へました所が宜き法方が無いならば到底救ふ事は出來ない者で御座いまする。其れ故に私は今日此の貧民を救ふ方法に就て御話なする積りで御座いまする。乍併或る人は言ひます「如何に諸方に貧民が居るとも、一個人が往いて之を助けたならば其れで澤山であらう」と、けれ共其れでは力が別れて本統の眞結果を奏する事は出來ない者である、其れ故に一つの組合を立て力を集めて大きな仕事を仕なければならん。而して若し其仕事を婦人がするならば一つの

婦人會と云ふ樣な者を造る事は大變に必要でありませう。併しさう云ふ會が出來た所が、其仕方はドウ云ふ樣にするかと云ふ事は一つの必要なる問題であるから、是れに就て私は歐羅巴及び亞米利加等の例に徴して御話しを仕樣と思ひまする。然らばドウ云ふ樣にして貧民を救うかと云へば、此の救ふと云ふ事に就ても大層仕方がありまする。或は衣服を拵へて其れを人に與へる事もあらう、或は病人があれば其爲めに惠む事もあらう、或は又貧民に食物を遣る事もあらうが、然う云ふ種々雜多なる者を助け樣と思ふ時には迚も一個人では出來んから、前に云つた通り一つの會が出來なければならんのであります。而して會が出來ればドウするかと云へば、其會の中から一人の會計とか書記とか云ふ者を撰んで、ソシテ其れ等の人が慈善事業に必要なる物品を買ふと云ふ樣な役を仕なければならん、或は又然う云ふ會を立てたならば、之を汎く世上に知らしむる事も必要である、或は又之を新聞雜誌等に廣告して貧民救助の爲めに寄附金を募る事も必要である、或は又其會員たる者が各々種々なる貧民の家を尋ねて而して其事情を己れが知己朋友に話して慈善家の寄附を乞ふと云ふ事も大變に必要なる事で、會員たる者が其事業に就て熱心に盡力すれば必ず諸方より寄附金が集まつて慈善が出來るに相違ありません。又物を買ひに往く時には僅か一人位の者が往つてはいけないものである、其れは此の事業に取つては極く大切なる事であるから、書記と會計と二人が其役を勤めなければならん、又其購買する物品も華美な物や或は見掛けの宜しい物で丈夫で無い物を買つてはならんので御座いまする。慈善の爲めにする品物は成る可く丈夫で餘り華美に無い所の物を買ふ事が極めて必要で御座いまする。此の二つが品物を買ふ標準とならなければならん、而して品物が集まつた時は會を開らくのであるが、其の開會は一週間に一遍でも二週間に一遍でも亦一ヶ月に一遍でも宜しい、而して會員の都合次第に其日を定めて開會して仕事をする樣に仕なければならんが、偖其仕事はドウ云ふ樣にしてするかと云へば、其處に集まつて居る所の人々が分業して盡力するのが必要であります。烏渡衣服を造るにも一人が裁ち役になれば他の一人は之を縫ふと云ふ樣に分業にするが宜しい、然るに其業を分けずして各々勝手な事をする、即ち前に裁ち役に成つた人が今度は縫ふ役になると云ふ樣な事をすれば、其仕事に規りが無くなるからいけません。併し最初業を分ける時に各々其好む所に從つて定めるのは固より宜しい事でありまする。斯う云ふ樣にして品物を造り出したならば、其れを貧民に與へるのであるが、其外に其會の資本を造る爲めに品物を拵へる事も宜しい、或は造つた品物を貰めて慈善會を開らいて賣る事も宜しい、或は其品物を諸方に持つて往つて、賣る事も宜しいので御座いまする。

其れから又會が開けて居りまする時は、其事業に就て有益なりと認むる書物を讀む事も必要である、而して其れをするには會員の中一人か或は二人の者を極めて置いて、之を讀む樣に仕なければならん、其れから仕事をするにも之を仕始めたならば、中途で止めずに終りまでして仕舞う事も大切で御座いまする。一躰人と云ふ者は新奇な事を好む者で、恰度子供に菓子を遣つて置いて、又後に奇麗な物を持つて來れば、前に貰らつたのは投げて仕舞つて新らしき物に手を附けると同じ事で、何の仕事をしても最初は面白いと思つて遣つて居る、けれ共若し外の仕事が出て來れば前に仕掛けた事は捨てゝ仕舞つて、新奇なる事に手を出すのは通常の人のする事である、就中婦人の會では(日本ではドウだか知らんが)歐羅巴、亞米利加等の婦人の會には然う云ふ傾きがあるから、何でも仕事を始めたならば、必ず其れを終る樣に務めなければならん。又物をするにも是れを貧乏人に遣る物だからと云つて、宜い加減な事をしてはいけない、斯んな事をするのは實に不心切な話しで、貧乏人に遣るならば丈夫な品物を造る樣に考へて、立派に遣つて遣らなければなりません。故に之を造るには能く注意して心切を旨としてすれば、自のづから宜き物が出來る樣になるので御座いまする。又物を買ひ込む事に於ても、大きな商賣人の處に往つても買う事は仕ない方が宜しい、小さな商賣人の處に往つて買ふのが必要で御座いませう。何故なれば大きな商賣人は澤山利益があるが、けれ共小さき者は儲けが少ない、併し小さき者から物を買へば高價いかも知れないが、慈善の目的を以て事をするのであるから、高價いのには拘はないでも宜しい、然うすれば物を買ふに就ても亦小さな者を保護すると云ふ一つの慈善が出來ます、而して一度買つて見て其小さき商人が正直で宜しいと認めたならば、常に其者より買ふ事をするが宜しう御座いませう。其れから品物が出來上つた上は、之を貧乏人に分け與へるのであるが、是れは最も大切な事で又中々六ケか敷き事であります。然らばドウ云ふ者に遣つたらば宜しいかと云ふに、先づ病人を助けて遣るのが大變に宜しい事で御座いませう。併し病人にも種類がある、一年も二年も煩らつて居る重病人もあるし、僅の間煩て居る病人もあるから、斯る場合にはドチラの病人を助けなければならんかと云ふに、第一に重病人を助けなければならん。何となれば重病人は働らく事が出來ないから、從つて益々貧に陷るのは當然である、故に其れ等の者を助けると云ふ事は必要なる事でありまする。

(未完)

批評

能勢榮氏學校管理術

賤陋と見ゆる所ろ多けれども、著者が思考に成る所ろも亦た尠なからず。二百六十餘頁に細かに管理術を記載す、讀者を益する所ろあらん。其敎育の最緊要の目的なる者に云く、

父兄の誤解は敢て咎む可きにあらざれども生徒をしてえらい人になる爲に學問すると思はしめたるは敎師の罪なり敎師たる者は宜しく知るべし敎育の最緊要の目的は人をして實用の知識を得、實地の仕事を爲し、人間社會に向ひて人たるの職分を盡し義務を果さしむるにあり敎育は決して人を變へて聖人にするにもあらず仙人にするにもあらず英雄豪傑にするにもあらず只だ商人は商人農夫は農夫職工は職工、男は男、女は女と各其經濟の位置を維持し其生活を全ふし其幸福を得せしむるもの也と、

所謂る商人は商人とは何如なる意義ぞ、商人の子安んぞ商人たるべしと定まらん而して幼にして商人たらんと欲するもの安んぞ亦必らず商人たるの資格ありとせん、敎育は只に商人たるべきものをして商人たらしむるもの也、左れど何人が眞に商人たるやを知らしめんには、先づ開發主義の自由敎育を施すにあらずんば爲し得べからざる也、然るに著者の言往々如此し、商に走らんとして爲めに正鵠を失す、惜むべきと也。

安寧策

未だ說法の終末を聽聞せず、然れども大體は既に心得たり、言ふとは同じけれども面白くして巧みあるが故に官人も膝を立てし、到底此邊の策に出でずんば他に致し方あるまじ。

議員列傳

各新聞紙上に三百議員の列傳を見る、初めて名を聞き功績を承はるも少なからず、之れ新聞紙の恩なり。特に其の風采を水天彷彿の間だに認たむ、知己の感なくんばあらざる也。而して傳に於ては國民新聞の記事を第一とす、之れ該新聞特得の長所にして、人物評の當れると目下比類なし。

報知新聞

五日以前の報知新聞は左して噂はる所ろなし、噂はれる所ろは只だ思軒居士の健筆出でたると、見出しの一行づゝ押領すると、是のみ、而して他の壯老例の如く執筆すと云へば、政治上の意見にも左程の豹變なきは勿論なれども、今や進歩

黨大聯合の事あらんとするに際し、今后純然營業的に從事すと吹聽するは、龍溪氏得意の畫策に似たり、兎に角改良と云ひて可なり。

江湖新聞

江湖新聞もし靈あらば、三宅氏あるの時を追懷して今昔の感果して何如に、此頃の紙面は純然たる佛道加護の記事に滿つ、之れ尙ほ可なり、然れども京都市中に兩本願寺あるに係はらず、遂に二名の基督教徒議員に選擧せられたるとを慷慨し、舊佛教衰頽の徵候先づ京都に顯はると云ふに至りては、吾人傍觀者をして眞正佛道の爲めにも亦涙を揮はしむ、思ふに佛道の眞理此如き狹まきものならんや。然し乍ら、左の如き適評は此新聞あらずんば世に聞ゆるとなし、今の江湖新聞ある亦た一の幸はひならん。

各宗僧侶氣質

一。天台宗「淳朴」大盡育ちの若樣、おとなしき生れと云ふて可なれども、其裏面にはのろま然たる形を藏せり、

二。眞言宗「正直」チヨンまげの老爺、律氣者と云ふべけれども、株を守て兎を待つの人物たるあり、

三。日蓮宗「剛毅」田舍の變人、言ひ出したるとは跡へひかずと云ふ傾きあり、人に敬して遠ざけらるゝ風あるべし、

四。淨土宗「篤厚」神經質の肺病者、陽氣を嫌ひ陰氣を好むの癖あり、而して物に執念深き性分なり、

五。眞宗「温恭」西京の娘子達、人に接するに意を用ひお世辭を使ひ過ぎて、茶屋の亭主も宜しくと云ふ有樣あり、而して更に宮樣風の氣質を帶びたり、

六。禪宗「活潑」東京の書生連、少しも飾るとなし、其樸な麁末に流れ、士民の外形なきにあらず、而して尤も武人風に長ぜり、

右の通り相違御座なく候以上

歸省

旗象子

數年前、日本情交史を細評して著者の才を賞揚したるは吾が女學雜誌記者のみ、今ま進化したる同著者の手に成れる散文の詩を讀み、淺からぬ緣故に因なみ、一層の讃辭を呈したきは山々あり。文脉の一種異樣にして宛から翻譯文を讀むが如く、嚙み切れぬ西洋料理を呑むが如きは面白からねど、想像に豐かなると、聯感の細やかなるとは非凡と云ふべし。此を以て、意至りて言はざる所あきのみならず、意至らざるも感の

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

通ずる所ろ僅は言ひ及ざるよなし、蜿々として蛇のはふが如く、轉々として螺の環の連なるが如し、長所此に存す、故に短所も亦た此にひそむ、歷ば

此世に彼がいつくしむ　迷ひ子にかくそのなでり
給にも入りてや身にぞしむ　泣かむ許りの目のくもり。

の如き措辭巧絕なるあり、此れ將そも讃せずといふを得べき乎。然し乍ら、其の長所、關門を入らんとするに近づき、

車夫は猶は我後の所作を取れり、而る後ち草鞋を代へ店主に對して而る後ち抜きたる後ち刀を抜き、其手巾を頭に結び、而る後ち槍を取れり、輪は綻りそめぬ、

の如き短所も少なからず、更に角此上一度の猶はむけざる、今まー篇の未だ足らざるを惜むのみ、翻譯小說界の文談は既に已に其の光を發しつゝある也。

試驗官が「ながい河の水も時々あふれるでしよう」と譯さし時の或る受驗生がこたへて「定めしさかなが急に生長するからでしよう」

青梅なぜかリノヽとたべるノダナー「そ□で何つかさんがもう一週間もたてば熟するからたべてもよいと云つしやつたから」「うむ然らんなー週間またたヽないうちにたべるから叱るノダーネ」「一週間は箪笥の中へ置て置けば熟しますから木の上におくのも箪笥の中へおくのも同じダト思て」

雜録

静女塾主、平尾みつ子女史を訪ふ

生野ふみ

生ひ茂りたる樹々の梢はなべて綠の色ながら濃きあり淡きあり疎なるあり密なるありてさながらに青地の錦と見紛がふばかりなるが二重に三重に屋舎の四邊を繞らしつ其透間より纔に屋根の一方を顯はすのみ栗皮色に染めたるペンキ塗りの門は深くも光澤を藏めて半ば木立に覆はれたり門の右側には平尾光子と記したる小さき標札を掛け左側には静女塾と大書したる木板を掲げたるは是ぞ神田區駿河臺鈴木町廿番地に於る女子教育の塾舎にぞある

門を入りて見れば左右皆鬱々としたる庭園にて種々の樹木草花などを植たり正面に一叢の木立ありて其傍に五六級の石階あり塾舎は少し小高き處に造られたれば此處を降て音問しに十五六の可憐らしき女生徒出來りぬ依て來意を告げて女史に面會を乞ひたるに稍暫くして彼女生は再び出來り慇懃に妹に答へらるゝやう只今は授業時間前なれば緩々と御話し申すといふ譯には行ざるも一寸お目にかゝるべしと申されたりいざとて妹を客室に導きぬ其應對動作等いかにも優にやさしくして

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

しかも赤甲斐〳〵し。

塾の構造は西洋風ながら其室内の躰裁はおもに日本風にせられたり大なる紫檀の机の上に文房具法帖な　の行儀よく陳列したる三四枚布き連ねたる緞通の上に更に又布き重ねたる一枚の羊の皮の毛並能く揃ひて悉く一方に向ひたるなど丁寧に掃除せられたる形跡の見へていと床し、窓に掛けたる簾の半掲げたる隙より例の綠葉なども見へて折々清き朝風の颯と吹き入るゝも心地よし實にかゝる閑室に坐して靜かに書をも讀みながら彼愛らしき女生達を薫陶せらるゝ主人公は抑もいかなる人にかあるやらむなど、坐ろに其風采を想見して脳裏に種々の模型を造り居たる折しも傍の戸の開く音してければ扨はと急に視線を其方に向けたるに生憎這は女史にはあらで前の女生が茶を持來りしにぞある自分ながらも何となく極り惡るければ思はず少し差俯向き居たる處へ不意に妹の前面に坐を構へたる人あり何心なく仰ぎ見しに是なん妹が待にまちたる當塾の主人公平尾みつ子女史にてありき。

女史は年齢未だ三十を越へ給はじと思はる其風采は瀟洒なるが中に侵すべからざる儀容あり其丁寧にしてしかも淡白なる挨拶ぶり等一々妹をして敬慕の意を起さしめたり去りながらに其躰格の餘り立派なると帯の結び方の無造作なるより稍男性に近き樣なりとの感じも一寸と起りたれど這は平常柔弱なる女性を多く見慣れ居るよりの結果なるべし談話の酣なるに及んではなか〳〵夫等の事に意を注ぐ遑はなかりき其は女史の精細なる談話と明著なる辨舌とは妹をして應接に餘念なからしめしが爲なり最初に、

靜女塾設立の年月は

と問ひたるに是は今より凡そ七年前明治十六年中に始めて設立せられたるものなりとの事なり。而して、

靜女塾設立以後の經歷は

今日までに凡そ四度の改革を施されたりとの事なり女史の言に依れば最初は女德の涵養といふ事を專一となし其敎授の科目なども生花茶の湯等主に優美なるものゝみとなしたるに其時は恰も惡くいへば矢場女ともいふべき(尤皆良家の娘にはあれど)品位卑しげなる女生のみ來り動もすれば白粉の付け方衣裳の噂などに光陰を費す形狀なりしを以て是にては到底致し方なしと思ひ一旦其生徒を謝絕し而して今度は其組織を改め高尙なる學問を授るを目的として生徒を集たるに其時は稍活氣ある生徒のみ來り可なり皆勉强をもなし學問も能く進

みたれど其代りには時々床板の抜ける様なる騒ぎもあり或は賄ひ方征伐下婢イヂメなど女性にあるまじき擧動をなせり而して之れを戒むれば生徒一同同盟休課をなすなど殆んど言語に絶へたる事もありし故是れも亦女性を教育する所以のものに非ずと思ひ再び其組織を改めて今度は主に普通學科を授けることゝなしたれ共是は亦餘り好結果を奏せざりしを以て遂に第四段目の改革を施し普通學科と限らずして別に令女令夫人たらんとするものにのみ入學を許すことゝなし何事にもあれ細君たるべきもの丶學ぶべき所のものを實地に於て活用する様に教ふる事となせしに存外好結果を得て何れも皆能き處へ嫁し夫々皆細君の務めを盡し居れり現に今寄宿に在る生徒等も此方針を以て教育しつゝ在るに何れも皆良淑の風ありて未頼母しき様なり世には隨分教育の事に就て種々議論する人もあれども兎角机上の論たるを免れず實際に遂って見ればなかく思ふ様にはゆかぬものなり依て私共は今日の如き考へは存せず何でも女子にも高尚なる學科を學ばせて遂には大學の別科にも這入らるゝ様に致し度しと考へ前申せし如き教育も爲し試みたれ共矢張細君たるの資格を養成するの勝れるに如かざる事に思はるゝ故に種々の經驗を積みて遂に今日の如き組織とはなせしなり（未完）。

人情　　もみぢ

人情を知ると云ふほど大切なるとあらじ、若き頃ろは世の中万事道理にて行はると思ふなり、左れど世の實相を觀ずるとの齡に連れて人は大方た情によりて動き居るとを認たむ、道理の行はるゝ處ろ極めて狹まし、蓋し道理の行はれぬにはあらず只だ道理のみにしては行はるゝとの少なきなり、先づ人情の爲めに利用せられ人情の爲めの道理となるにあらずんば世を益するゞ殆んど稀れなり、故に人情を知らぬものはベコーンの智ありとも云へど世に容れらるゝとなし、人情を知るものは文字なしと云へども千古其情けのあつかりしとを賞へらる、人情の事重んぜずんばあるべからず。

さびしさ　Solitude.　かすみ

富士に登りし人、頂きに夜を明かして黙々と考ふれば、雲は足下を飛ひ、雷は地の底に鳴り轟ろき、月星光り爛めきて間ひ近く見へ、四面漠々して獨り天に聳ゆるの心地す、鳥鳴かず、獸行せず、木戰はず、相語らはんに人類なし、他の一個の動物すら動くとなし、静けきと深夜の靜なるよりも靜く、寂として

て音と云ふほどの微響もなし、此に於てか天地壯嚴、万物緘默、何處に己が志を寄せん、宇宙の間一毫も情を同ふするものなしと感ずると抑そも何程の心細さぞや。左れど卓人の世に超然として立ち、妻子知らず朋友知らず世を擧つて知らざるの境界に只だ其の獨自一己を守るの時、情さびしきと安んぞ此に異ならん、余は古今の偉人の爲めに此の一事を懷ふ、涙襟を潤ほして自づから禁ずるなし。

コレラの好む所

ミ、子、

九夏三伏の候近づきぬ、惡病發生の時期誠に恐るべし、されど其發生するや必らず原因あるべし、今少しく之を說くは時節柄無用の事に非ずと信ず、凡そ人其健康を保たんとならば常に新鮮清潔の空氣を呼吸せざる可からず、人飮食を爲す、胃に至つて其滋養物を吸收し、不用物は之を排泄す、肺には斯る作用なし、故に汚腐の空氣を呼吸すれば直ちに健康を害す、是を新鮮なる空氣を要するの所以なりと云ふ、如何に惡病流行するも眞に健康ならば恐るゝに足らじ、氣候の不勝、飮食物の麁惡、身躰の疲勞、心意の過用等皆病を速く原因なるべし、されど汚穢の空氣程害を與へず、人間の身躰より蒸發する分子にして甚だ害を爲すものあり、其分子多き空氣を呼吸せば恐るべき病を生ず、西曆千八百四十九年の秋なりき、英國の某都にコレラ病發生せり、第一に勞役社會に傳はりぬ、當時英國の人家は建築其宜しきを得ず、空氣の流通惡しかりき、殊に學校塾舍の建築宜しからざりき、或學校の女生一人コレラに罹り十分にして死したり、繼ひて許多の女生同病にて倒れたりき、男生は女子と異り、窓を閉ちて幽居せざりしが故に女生の如く病に犯されざりき、罪人の衣食住居は學生に比して素より麁惡なりしが其室廣かりしが故に惡症に罹るもの一人もなかりき、是を以て知る、人躰より發生する汚穢の分子を含蓄する空氣は即ち惡病の起る原因なる事を、密室內の腐敗せる空氣は恰かも汚水濁江より蒸發する毒分子の如し空氣の流通をよからしむるは即はち惡病を防ぐ最好の方法なり。

今は採集の時なり

井上二郎

今は天地草木の美を愛して、其の一片を採集し、終始の樂みに供ふるの季なり、故を以て客貝天知は昆虫植物金石の採集法を講じ、小冊子一卷を著はす。云く、麗かなる新綠の野外に杖を曳し時、諸子は可憐なる蝴蝶を見て何かに感ぜしか、涼しき樹陰の溪流に沿ふて遠足せし時諸兄は美麗なる昆虫を

觀て何かに感ぜしか、諸子は學に冷眼なるものに非ず又樂しむに高尚あるものに非ず必らずや之を採りて函に納め坐右に博物館を開きて友を延き一は天の美に樂しみ一は研究の好材料とせんとするならん、之を以て散策一對の樂しみ深し、多愛なる諸友よ予が採集法を講ずるは唯し同好の割愛のみ。

女性の言葉つき

曉月子

女子の言葉は總じて優美です、むくつけき男子も婦人と物語せしのちは何となく其調子が移て居るようです、鬼神のような粗々しひ人をも、女の方がやさしひ言葉を以てよく和げることが出來ます、其聲音の優い處、其口調の丁寧なるにとても男子には及びません、されども近來は十分女性の方々が御使ひなさる言葉のうちに粗々しひ、また丁寧でない、一種特別な聞き付けない、嫌な言葉が大分に這入て來たようです、御自身で御使ひなさる時は此氣も附きますまひが外方から伺ひ居ますと時々冷りとするような事が時々デス、それにある方はむづかしひ漢語などを使て、そしてまた英語も始終まじりますから田舍の親族や昔しなじみの人などがその家の令孃が話さるゝ御言葉を兎角理解するに苦しむそうです。最も男子との應接では御讀みなさる點もあるでしようからしてさのみにも思はれませんが、女子の方々計りですと隨分御賞め申すことが出來ません言葉を御使ひなさるようデス、

オヤ貴孃よくきたノテー、、、、私のおつかさんが　家のおとつさん、アライヤヨ　よくつてよ　何々ダワ

公園へ散步に行く？（行くて切て仕舞て西洋風に語尾を上げる）君は……僕が……何々すべしダヨ　アラマー

本當？（これも前同樣語尾を上る）ウ、ン（イーエと云ふ言葉）

斯等の類隨分有りますが、私は高尚優美の其品格をよくこれ等の言語によりて備へ得給ふかを怪しみます、私は決して遊ば女言葉を御使ひなさいと申すのではありませんが、此頃諸學校に流行する女生徒方の御言葉よりもむしろ遊ば女言葉の方が増しと思ひます、言語は唯だに思想を表はすと云ふ計りなら文辭も不用です、そしてこの粗々しひ間違た言葉文法に當てはまらない言葉は女生徒の特有になりましたそしてなほこの上にいろ／＼の嫌な言語が這入りそうに思はれます、むかしの丁寧な老人に時候の應接でもせらるゝと唯無言で頭を下て居るのみですこれは自分の方に意味があるからでしよう、さりとて口喧しく喋りたまへと云ふのではありません、いつも惡まれ口のみ御吐しを願ひます。

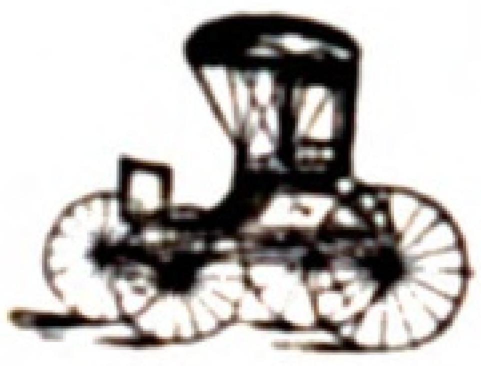
吉田松蔭先生の女論

今や歐米の風物は靡然として我が國民を娟化するに當り、女子教育の事に關しては、稍や其の米風に偏して却て我が姉妹に利ならざるの跡あるきにあらず、余嘗て松蔭吉田先生所講の武教講錄中女教の篇を讀みて、頗ぶる同感に堪えず、故に其の一節を抄錄して世人の瀏覽に供す。

伴 直之助

女子の教戒の事、先師の深意(象山)尤も味ふべし、夫婦は人倫の大綱にて、父子兄弟の由て生ずる所なれば、一家盛衰治亂の界、全く茲にあり、故に先づ女子を教戒せずんばあるべからず、男子何程剛腸にして、武士道を守るとも、婦人道を失ふ時は、一家治らず、子孫の教戒亦廢絶するに至る、豈愼まざるべけんや、而して挽近女子の教戒を以て專事とする者あるとを聞かず、蓋し女教大畧三樣あり、先づ源氏物語伊勢物語等の俗書淫泆の事を以て教とする、是れ先師の深く嘆ずる所にて、教とするに足らず、然れども此類只今にて貴人大家には或はあらん、平士以下にては甚だ少なし、但し和歌俳諧茶湯等の遊藝を以て娛みとする者は間々あり、是亦其類なり、又貝原氏の書、或は心學者流の書等を以て教とするあり、是尤も正しく尤も善し、然れども柔順幽閑清苦儉素の教はあれども、節烈果斷の教に乏し、太平無事の時は是にて餘りあれども、變故の際に貞操峻節を勵ますに至ては未だ足れりとせず、獨り先師の教へ以二柔順一爲レ用、以二果斷一爲レ制、と云者兩ながら全しと云べし、又爲二士之妻室一者、士常在レ節而不レ知レ內、故代レ夫戒二家業一豈以二懦弱一乎、と云は實に至言なり、且つ漢唐之間守レ義死レ節之女、皇國武將之妻室以二盛衰一不レ改レ節以二存亡一不レ易レ心、或當レ賊或死レ敵を以て證とす其意更に明なり、漢唐と云は註に據れば列女傳(蓋し劉子政の著す所を云ふ)小學(宋朱文公の著す所)等に載する所を指すと見へたり、列女傳は余未だ本書を見ず、小學にては、漢の陳孝婦曹文叔妻唐鄭義宗妻奉天竇氏二女等也、就て見るべし、又後漢書列女傳に載する皇甫規妻董卓を罵りて節に車下に死し、樂羊子妻盜を拒み姑に代りて刎頸して死するの類、其他尚ほ苦節烈行其夥し　又明清間の史集を閲するに貞婦烈女極て多し、皇國武將の妻室と云は武田勝賴の妻、北條氏細川忠興の妻、明智氏柴田勝家の妻、織田氏(信長の妹にて初め淺井長政に嫁す長政の亡ぶる時殉死せずして大歸すれば其節已に闕く唯勝家に殉死するの一節取るべし)蒲生氏鄉の妻明智氏などの類を指すにや其外結城親光楠正成菊池寂阿等の妻義朝義經等の妾(常盤三子の爲めに淸盛に從ひしは尙辭あり然れども寵衰ふるに及んで出て人に嫁するは何事ぞや然れども其心事亦人に過ぎたる者あり)の類古今枚擧に暇あらず、願くは和漢古今に亘り、此種の人を妙選し、雄勁明暢の筆を倩て、國語を以て其傳を綴り、頗る是に論斷を加へ、以て女子の龜鑑とせば、甚美擧と云べし、前に引く所の列女傳小學并漢文にて女子の講讀に便ならず、皇國婦女の事實而者草に列女の傳あるを見る甚善し、但收むる所の人數甚寡きを恨む、近日人あり本朝女鑑の刻本を示す、其躰裁先づ吾心を得たり、未だ全豹を窺はずと雖ども、亦其一斑を得たり、但し其中光明皇后等の事を載す、余甚だ喜ばず、然れども其外收むる所は皆女子の鑑とすべき者なり、余從來此事に心ありと云ども未だ多く此の種の書を搜索するに暇あらず、思ふに其撰其文並に吾心を獲たる者ありて未だ見るに及ばざるともあるべし、抑古語に忠臣不事二君を以て烈女不更二夫と對して云ふ、其意極て深し上に云ふ後漢書列女傳中曹世叔妻の傳に女誡七篇を載す、極て善し其中に烈女の義を論じて曰く、禮夫有再娶之義婦無二適之文、又曰く得二意一人一是謂二永畢一、失二意一人一是謂二永訖一、と蓋し婦人夫を以て天とし一適して改めず猶人臣の君に事ると異るとなし、今の俗猶ほ婚禮には楾樅樹の上張かちんの上下を著く、婦人巳に嫁すれば齒に塗るに鐵漿を以てす皆其意深黑不迴の色に象どり、一適不改の義を取るとなり、然れども今世淫泆の婦は往々聞くとあれ共貞烈の婦に至ては寥々乎として響を絶す、然れば禮儀聊か其義を存すと雖ども其義は已に泯沒せり、余常に竊かに是を過憂して亂亡の先兆とす、何となれば物各類あり故に忠臣を求むるは孝子の門に於てすと云へり、節も亦忠孝の類に非ずや、然れば今世貞烈の婦に乏しき所以は、父兄の教戒至らざるなり、父兄の教戒至らざる所以は、其自ら君父に事ふる忠孝の心なければ也、今時平に國安ければ、宴安に其日を送り祿を辭し官を罷て、去て他邦に往く者あるとなし、然れども是を以て遽に其二君に事ざるの忠心を信ずるに足らんや、滔々たる父兄皆其忠心なし、故に兒女其教戒を聞かず、兒女其教戒を聞かず、故に人の妻となりて貞烈の節を勵まず、人の母となりて其子を教戒するとを知らず、是父兄女孫皆曖昧にして無教戒の世界に生死す、是に於てか烈女なく忠臣なし、今日に三夫四五夫を更て耻ざるの子孫は、異日必ず二三君四五君に事て耻なかたりとするの臣僕なり、歐陽公王凝が妻の事を引て馮道を譏す、其深意亦推して知べし、有志の士憤念を起して茲に至らば、安ぞ惻然惕然女子の教戒に汲々せざるとを得んや、有志の士眞に今の弊を救んとならば、先其妻其女を教育するに前に云ふ古烈女の事蹟を以てし、殊更叮嚀に二夫を更ざるの大義を教育し置き、其子婦に臨では又此義を掲示して、且夫家万々居るに堪ざるのとあらば、自盡するの外、天地間別道あるとなきを教育すへし、若し敢て親家に大歸する者あらば忍びざるとなれ共、父兄逼て自盡さすべし、是程の事なれば最初擇婿の時も勿論苟且なるとなかるべし、又其女子にさへ斯く大義を責る程の父兄、其君に事るの忠義も甲斐々々敷事共也、唯有志の士深察遠慮せよ

(子孫教戒の篇抄錄)



懸賞答文

理想の紳士

上點の答　玉蘭女史

頃日貴社理想紳士の資格てふ題を掲げ廣く女性の意見を御問被爲候由承り候、就而は妾が卑見書き並べて兎や角申上候は誠にはづかしく存候へ共日頃胸にあると申上げでは腹ふくるゝの思ひ否な胸さくる計りに感じ候故、眼をねぶりて赤面ながら聊か左に申上候。

世界中人類の幾億万の多きも心の不同は其面の如しとかや各々長所も短所も有之候故長所のみを一箇人に備へんことを望むは只望むのみにて不可得ことゝ存候へ共願はしき品性二三を申上げんには、第一、正直なることに御座候、誰にも「正直は、最良の方策なり」或は「至誠は天地を動す」など申せば正直の力ほど誠に大なるものは無之候正直にして其思だにも邪なければ自ら、快活、淡泊、洒々落々、心廣く體胖かにいやみなどと申ことは少しも無之始めて人を感化し人をして慕はしめ又懐け引つくるの德即ち有隣の德此の正直に萠すことゝ存じ候、しかし淡泊磊落なるよりして放任或は優柔不斷なることには最も陥り易きことに有之候且つ小事に忠ならざれば大事にも忠ならずと申し候へば謹愼にして万事に忠實なることも尤も必要と存じ候。此の多忙多端なる世に處して忠實に事務を埒明かせんには、第二、勇氣と決斷とを必要と致し候勇氣及決斷など有之候へば剛毅動すべからず尊嚴犯すべからざる風自ら生じ威風凜々誠に高貴の品格と考られ候。又謹愼、剛毅、尊嚴なることなどよりして悄然人を懼れしめ又世に忌避せらるゝは往々ありがちの落度に有之候故、第三には、愛を必要と致し候「愛は凡ての德の帶なり」愛は獻身無我即ち全心全力を盡して神を愛し又熱き心をもて人を愛することに御座候愛ありてこそ誠に威ありて猛からざることを得るなれ是に於て正直に萠せし德愈々完全に愈々榮光あることと存じ候。第四、學問才智などに至ては元より碩學哲士たることこそ望ましけれども誠に得難きことに存じ候へば學は深からざるも才淺からず常時世に處して世に後れず又人に捨てられず利世の事業を爲し得る器量有之候へば滿足と存じ候。第五、には容貌に御座候へ共右等の眞品性を備へ候へば容貌の如きは自ら目にもかゝらず又自ら美しく慕しきものと存じ候故身體完全に且健康に有之候へば餘は左程意とすることに無御座候。第六、其職業などに

至ては農、工、商、或は官職を奉ずるも孰れか賤く孰れか貴きなど申すとは決して無之候只射利的あらず寧ろ慈善的に國を益し人を利する業に有之候へば滿足に御座候。」右點數をもて比較致し候へば第一、二、三、各廿一點第四、廿點第五、十點、第六、七點と可致候。

鶯シヤレを言ふ

春陸生

或老人が高價の鶯を購ひましたが。いかなることか。一聲も鳴きたることはありません。そこで鶯に向ひまして此間まで美しい聲で鳴たではあいか。なぜ鳴て聞せないのであると苦情をならべました。鶯も氣の毒に思ひましたか。明日はきつと鳴きますから。朝早くあついお湯を下さいましと約束をいたしました。飼主は大に喜び翌朝ほのぐらきより起き出て。白湯をちんくたぎらせまして。鶯の所に持ち參りて與へました。鶯は一口飲ふとし。若し飼主さん此湯は餘りあつくつて飲ませんから。籠の戸を開けて下さいと云ひました。飼主は言ふがまにくかごの戸を開きますと。鶯は茶碗をくわへてちよんく庭の方へ參りますから。鶯どん何處へ往きあさる。約束じや早く鳴きあさい。ハイ只今梅にゆきて鳴きます

慈善事業（第二）

慈惠院を訪ふ

雲峯生

一日慈惠院を芝愛宕山下に訪ひぬ、聊か見聞せる所を畧記せん、同院内に看護婦養成所あり、其取締なる松浦さと子氏は社員が知己なるを以て同氏に乞ふて院内の模樣を問はんと思ひぬ、折あしく松浦氏病氣の爲め面會を得る能はざりき、されど八木まさ子氏代つて丁寧懇切に案内し呉れぬ、始めに新築せし病室を見たり、此處は落成して未だ病人を入れず、上下階に六十人を臥さしむべし、現今病人を入るゝ室と其構造皆同じ、病室の側らに一室あり、導かれて入り八木氏の紹介によりて看護長林徽音子氏に面會しぬ、氏は數年前英國に渡航し、彼地の看護婦養育所、病院等を實地視察し、昨年十月歸朝せられたりと聞く、目下親しく病人の爲めに看護の労を取らる、當時同院内にある病人八十、內施療するもの六十人ありと云ふ、夫れより病者を見舞ひぬ、二階の病室に看護長たるゝは那須せい子氏あり、氏の案内を乞ふて二階の病人を見舞ひぬ、貧しき身にして病に罹る不幸者、眞に憐むに堪えたり、されど慈愛に富める人多くして斯る病院を設けらるゝは只に貧民の爲めに賀すべきのみならず、國家の大幸と云ふべし、殊に青春妙齡の婦人にして榮えを捨て、齡れを顧みず、命を献げ、身を犧牲となして悲慘慘憺たる病窓々裏に潜み、苦惱に呻吟する病者の爲めに盡さるゝは感ずるに餘りあり、余は常に思ふ女子の職業として最も高貴なるは看護婦なりと、或は苦痛に泣くの聲を聞き、或は悽愴たる顏色を見、不潔汚穢に接す、何人か之を快しと思はん、然るに其快らぬを忍ぶ、爲にする所あるに非ざるや明白たり、之ら犧牲獻身的の事業をなす、誠に貴重なる事業と云ふべし今此慈惠院内に看護婦たるゝ人は八十名ありと聞きぬ、余は世の諸女子が奮つて貴重の務めに身を委せられん事を望む、天使の如き溫厚柔和の顏、深切篤愛の聲はよく幾多の悲魂病魄を病床に慰むべし、余は看護婦たる諸氏に遇ひ、切に之を感じぬ、病室を見終りて亦林氏の室に伴はれ歸りぬ余は

英國の病院、看護婦教育所等の事につきて問ひぬ、林氏英國より持歸られし寫眞數十葉を取出し見せ給ひぬ、其内の一を取りてこは是有名なるセント、トマス病院なりと指し示されたり、テームス河畔風清く水の脊泥める所に許多の層樓棟を並べて立つ樣明らかに見えぬ、そが内には八百有餘の病人ありとぞ、其他斯く大ひなる病院少なからぬと聞く、病者の多き斯の如し、看護婦も亦た從て多かるべしと問ひしに林氏云く年に一度看護婦の會合あり、ロンドン市中の病院より集るもの ゝみにても三千人の多きに至る

みぞ知られける、森の下道行き過ぎて、谷間も廣くなりぬれば、山路も何時か盡き果てぬ、遠く聞ゆる鐘の音に、近き山蔭をながむれば、高ねにかゝる横雲に、羽打かはし飛ぶ鳥の明けぬと告ぐる聲すなり、初秋や近き朝露に、山田の稻葉打なびき、聲涼しくなりにけり、朝日の光匂ひ初めて、芝生に殘る白露の、消え行く末こそ寂なけれ、我身の果を白露と、思ふとしもはなけれども、心悲しくなりにけり、道を急げば夕つく日、早くも西に傾きて、賤がわら屋に立つ烟、川上遠く打なびき、なることの音に驚ろきて、塒に歸るむら雀、羽音淋しき夕まぐれ、吹き立風の涼しさに秋の聲こそ聞えけれ、日も早や暮れて森の、梢近に見え初めぬ、なれぬ旅路のかり枕、物思ふ身は終宵ら、夢も結ばで明しけり、明けて行くえは名にしおふ、高き山路にふみ入りぬ、高ねに足をふみとゞめ、原ある雲の絶間より、故郷の空をかへり見て、暫し思ひにかきくれぬ、仰げば雲井に立山の、高ねに見えて立烟、限りしあれば絶ゆれども、我身の望みは絶えせじと、暫しは眺めつゝけゝり、再立出づる旅衣、日數も何時か重りて、長き山路も果にけり、行え遙かに眺むれば、磯の松原まばらにて、名にのみ聞し大海原、今までのあたり見え初めぬ、都に心いそげども、家郷の空ぞ望まるゝ、濱の松風吹立ちて、岸による波音高く、ひゞくも凄き夕まぐれ、港にこそは着にけれ、見渡せば、大船小舟打つどひ、波路をたどる水車、大海原は渡るども、うき世の波間渡り得じ、西の海原見渡せば、黄金の波に久方の、夕日の影も入にけり、入り相の空も淋しく暮ぬれば、船の燈數そひぬ、瀧音のひゞきに一筋の、烟をあとに殘し置き、岸をはなれて大船は沖津波間に出にけり、磯山寺になる鐘も、今は聞えぬ海原の舟路に小夜や更ぬらん、朔風強く吹出てゝ、舟は波間にたゞよひぬ、あらき波路に立泡のあはれと云はん人もなく、獨りさすらふ身にしあれば、悲しさいとゞ勝りけり、物を嘆けば白波の、かゝらぬ袖も濡れはてぬ、海路遙かに見渡せば、浮雲迷ふ大空に、初鳫かねぞ音づれぬ、鳫もうき世や喞つらじ、なく音悲しく聞えけり、身のとしかたや行末を、思ひつゞくる終宵、うきねの夢も見えざりき、沖鳥ねの聲の、鐘のひゞきも明けそめて、天つみ空に久方の、朝日の影もさし出てゝ、きらめく波の音涼し、時も來ぬれば大船は、港にこそは入りにけれ、滊車のめぐりの速ければ都に何時か着にけり。

寄書

思ひ得たることゞも　其三

俯綱生

○一九、三馬の戯著を始めさし當時に至るまでの所謂滑稽本なるものを見るに大抵は猥褻か尾籠の話ならぬはなし全躰滑稽さ猥褻尾籠の話さの間柄は左迄親密なるものにや余は甚だ訝かしく思ふ、思ふに談笑の間に大にしては君の非を改めしめ民の怒をもさき小にしては一家の親睦を増し朋友の間を調和する樣にありてこそ滑稽も有用のものなれ王公貴人を摘み貴婦顔を赤らむるが如き洒落が何の稔にたつべきや今の滑稽雜誌の如きも少しく注意せさる可からざるなり

○余は田舍に生長せしか故に農事は日常見聞したる處なるがおもふに當時は正に稻の植付最中ならん今年は春來殊の外雨多く麥作は平年の中にも及ばすさ聞けば父老はみな今年秋收の充分ならんことを祈りて汗たらしつゝ勵み居るならんさて農家にては此植付すみてより二十日ばかりを經れば田の草さりと云ふことを始むるなりこは水田の中に生ひしげる雜草をはひあるきて拔き取るにて凡九月の末までに四五度も折かへして此法を行ふなりかく草さるには農家は男女共野に出でゝ働くことにて炎天に蒸へかへるが如き田の中を日がら這ひまはるさま皷に見るも氣の毒なる心地すしかしながら日かたふきて鳥の塒もさむる頃さなれば此等の男女みなく打つれだち「時候がよくて豐年で門田の稻には穗に穗が出來た」など歌ひつゝ睦まじく語り合て歸ることにて其樣言はん方なく樂げなり余は之を見る毎に常に羨ましく思はぬことはなかりき其後笈を負ひ東京に來りしよりこのかた見るものも聞くものも皆田舍と同しからず中には樂しげに馬車の中にて夜會の噂しながら驅けまはらるゝ貴紳令孃方を見受くることもありてそを羨ましく思はぬにはあられど何さやらん曩に農家の田の草さりのかへるさを羨みし程にはあらぬ樣なりしかしこれは我眼の未だ都なれぬ爲にてもあるべきかと思はるゝが皆樣方は如何に思召し玉ふかききかまほし

開書

被選失選の諸君に參らす

櫻田いう

七月一日以降三日の間、都府各縣に於ける衆議院候補者選擧の有樣を觀察するに眞に是夏日に於ける衝激震烈の驟雨に均きか然れども今や潑墨の雲、傾注の雨、蓬々の風、霹靂の雷、忽焉として去り、唯見る蒼天の明爽たる、星斗の燗然たる、露滴の團々たる、冷氣の蕭條たる金燦石流の苦熱を洗ひ去れり豈この淸凉たる夏宵を樂まずして可ならんや、吾人は被選議員諸君が龍神を叱咤し、風伯を睨殺し勝を衆望の上に遂て給ひしを祝賀し奉る、蓋し諸君は正毅の勇士、諸君が平素の持論に對し反對强迫をいたすの徒輩多き中に屹然立て公道の職を决するの勇氣を欽賞し奉る、蓋し諸君は愛國の名士。嗚呼吾國の議會は如何に明淸賢靜なるよ、余は確く信ず諸君は徒らに脈賜の金圓を望むの人に非ず、空しく輕薄の辯論を以て世人を瞞着するの人に非ず、而して其云ふ所は高潔の所論なるべく其欲する所は日本國民の輿論を代表し得ると國家の福利を謀るとに外ならざるべし、敢て請ふ諸君の意中には主義によれる頑迷執固の弊なからん事を諸君が意中には日本男子の代表者として又かたく日本婦女子の代表者たるの覺悟を失はざらん事を、諸君が外交の杞憂を口にせらるゝと共に深く内に志氣を汚すの窮鬼多きを知り給はん事を、然して諸君が力によりよく炎蒸の酷熱を去り余輩女流をして胸襟豁然冷凉骨を洗ふの快あらしめよ妹等は諸君によりて大に秋宵の皎月を待つものなり。失選諸君今何處にかある諸君が一敗はこれ他日の千勝を期し得べきの兆なり、妹等は勝者にのみ花を送るの人に非ず、萬邦の神子たるに三十年の準備あり、諸君が熱望を滿たす能はざりしは深くこれを悲しむも、これ諸君が蓄力の大ならんためなり妹等は諸君のために慰者たるを許せ、然してまた諸君が妹等の輔者たるを期せよ

破月評　被失選擧の諸君幸にこの小牘が志を容れよ。

交詢

みれ子

●安房北條佐久間よし子樣　列女賢婦傳は日本書にては西國婦人立志編（英書）（定價七十五錢）、宮内省藏版の婦女鑑（大本六册價一圓）抔が宜しひものと思ひます、英書なれば「セレブレーテッドウイメン」、「エミチント、ウイメン」等、何れも一圓二十錢位にて買へます）が宜しひでしよふ、

●羽後南秋川米田貞吉樣　小兒の教育法を教へたる書物には船越氏著に係る應用小兒撫生法、小池高橋兩氏著家庭教育（價廿七錢）抔があります、當社にて發兌する通信女學講義の内に育兒法と云ふのを撰ひてあります、是もよかろうと思ひます。精神的教育を施こすにはどうしても宗教に依られればなりますまい、宗教に依れば先づ如何なる宗教が宜しひかと云ふ事を第一に定めなければなりません、其上若御問ひがあれば亦御答へ申しましよふ、而若宗教によられれば古今の英傑の傳抔を讀むを隨分精神的の修養をなす事が出來ると思ひます

○佐渡にて海野樣　女學雜誌社員の男子は皆妻君あり、女子は皆夫あるかとの御問ひ、是は交詢欄にては答へかれます

○肥後の國某要生樣　妻君を求むるの方法は如何との御問ひ是は誠に六かしい事ですから此處で精しく答へられません、極簡短に申せば女子と交際を廣くし、女子の人物をよく觀察し、多數の内より撰ぶのが最も宜しいと思ひます

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

時事

火上獄中の默念

米價少し低落せんとしつゝあるものを、梅雨ちとの日光なも滿さずして年實又々掛念せらる、然るにコレラ病恐るべきの暴威を以て此際大に蔓延し來らんとす、四面の同胞願はくは慈愛し、可成く住ひを清潔にし躰を健やかにし、心を丈夫にせよ然れども人遂に死せざるなく、死は何時來るかも知れぬものなり、故に何よりも先づ大道を悟知して人の運命の何如なるかを確認し、固く安心立命の地を得て此浮世間に休處するを善しとす、苟くも此に至れば鑊湯も爐炭も我を屈するに足らざる也、吾人は一生一刻も此大問題に考へ及ぼさゞる彼の蜉蝣の如き徒を何如にも氣の毒に思ふ。

此度の撰擧

は一喜一涙あり、思ひの外に善く出來たる處ろもあれど、亦意外なる人物も多く出でたり、而して或は僞はりの書狀電報を發したるとの如き、或は金を與へ力を以て脅迫したるとの如き、或は撰擧せねと云ふにより店を追立て貸金を督促したるとの如き、紛々累々として醜聞の傳はるもの極めて多し、志士は恐らく此等を曝露し、議員を今日出來る丈け清潔に爲し置かずんばある可らず、議員矯正會を置んよりも先づ議員出處の攻究懲伐會を設くると必要なり、不正の手段にて撰ばれたるものは亦不正の手段を以て議院を毒するもの也。

市中の君子

撰擧雜々の際、君子の如く、大丈夫の如く、心情何如にも潔ぎよく、富士の峯の天に抽き、太平洋の波万里靜けきが如くなりしもの亦た絕無なりしにあらず、吾人の聞く所ろは異日之を公けにすべし、同好の人の知る所ろは希くは報ぜよ。

明日

明日ありと思ふ心の仇櫻、夜半に嵐の吹かぬものかは、實に嵐ありと思はゞ明日も賴まれぬなるべし、左れど來べき日に悉く嵐あるにもあらず、落膽の人よ左な絕望の淵に身を投ずるとなかれ、女詩人プロクタアと亦た歌ふにあらずや、

わが心悲しきに衰ろへ果て、
耐ゆる力も情けなし
あくる朝たも苦しきの日か
恐れて心うしなはじ
うきもなやみも知るひとの
主はあはれみ導かん

非草非木

官吏の撰擧せらるゝと、他の事は言はず第一、民撰の精神に逆ふ、陸奧、楠本、津田氏以下好人物ならざるにあらず、然れども此一點に於て吾人は此舉を得たるとを喜ばざる也、左れど官邊に於ては兼ての志願幾分か成就せしならん、雲上の事は洞察し得れど、盛しきまゝゝの趣向ありと見ゆ、

しらくもと見ゆるにしるし三芳野の
よしのゝ山の花ざかりかも、

何の日か淸まん

聖人亡び、君子未だ出でず、政海の淸まんと何の日ぞ、ボルク何處にある、ブライト何處にある、甲東何處にある、南洲何處にある、詩人歌ふて曰く、紛々爭奪成何事、白骨生苔但可哀。

短歌行

富貴得意如登天、自計一跌理不全、貴食忘味夜貴眠、退過一日如一年、春蠶得衣蝌得食、農功訖成各休息、衞酒爐邊紛鼓笛、我過一年如一日、二者求樂勢安可、與我周旋寧作我、春城桃李豈不妍、雪洞未妨松菊碉、人生觸蠻總遭論、剛纔島得爲孤豚、君不見聖徒父子、漆黃犬蹉々秋風下蔡門。

田口卯吉君恙がなし

其私信によれば、君は無事平安、而して到る處ろ多望なるが如し、君に接するもの多くは商人紳士、日本の志士國を脫するものとして太たく優待すと、此時に於て君例の如く嘻々快笑し、週切らぬ吶辯を以て愛嬌を溢し居らるゝならん、吾人は其の東京市民に對する大ひなる土産と、想像に富める面白き紀行文との、一日も早く目前に現はれんとを待つ。

托鉢

托鉢は禁止して宜しきものと思ひ居たり、今や果して然かなれり、是れ尤もの事なり。宗教家は戶前に立つて分らぬとを唱し、夫にて衣食する如き下賤のものにあらず、野の百合の花を見よ、空の鳥を見よ、天は働らくものにパンを與へざるものに非ず、宗教家もし道の爲に盡力せば烏すら尙は食を齎らし來る、况んや有情の人間に於てをや。托鉢の禁止は乞食坊主に獨立心を與へ一般の宗教道を高むるもの也。

米國女子撰擧權擴張會

右會の第二十一年會五月二十六日トレモント、テムプルに於て開かる、例の如く會長以下諸氏の熱心なる演說及び報告のありし后ち、數多の有益なる議決八件を定めぬ、其一二に、

吾等は、女子撰擧權擴張の事業の年々に進步するとを認め之を賀す。本年度に在てはワイヲミン州の民新に之に同意し、衆議院に於て其擴張案を是納し、法務委員も亦た憲法改正會に此案を持出すとに同意したる等の出來事を祝する事。

吾等は、大英國、アウストラリア、ニウジーランド、カナダ、ノルエー、スエーデン、及びフヒンランド等の諸國が男女政權同一の事に彌よ盡力するを謝し、近頃に至り、ニウヘブンの神學校及び紐育大學の法科等に女生を入るゝ事を許し又ジヨンス、ホプキンス大學の醫科にも之を許さんとするに至れる等の新現象を祝する事。

バットレル夫人

英國にて二十年間廢娼論を主張し、遂に國會をして楳毒撿査條例を全廢するに至らしめたるジヨセフヒン、バットレル夫人は、良人カノンバットレル氏の病ひ重きによりて本年の万國廢娼會議にも列席わらざりしが、其良人は遂に死去し、夫人が最大の寶空しく散り失せたり、此頃ろウイラード女史に送れる書狀に云く

良人の永眠せし事につき深く同情もて御察し被下候事深く奉謝候、御身の情誼厚く、友愛深きは常に知得致し居候、今度良人におくれ候て御身の愛情程妾を慰め呉れ候もの無之候、良人を失ひ候事は誠に悲しむべきの限りに候、思ふに今ま社會改良を企望致し候人々にても未だ良人の品性の高貴なる所を認めずさ存候、亦妾の事業の如く見え候ものにて實際良人の手にあり候事をも知ろまじさ存候、妾が良人より受け候感化は將來永く消え失せまじく候、良人の品性さ其事業を記臆致し候事は最も妾を励まし候故、身を終ふるまで全心を盡して之を理想さし働き申すべく候、殊に良人が病床に就かれし后は宗教上の信仰愈確く相見え候、良人は學問に博通し、批評の才識に富み候ひしが其信仰は幼兒の如くにて有之候、此后さも良人の志をつぎ益事業を擴張する覺悟に御坐候、云々。

卒業女學生（一）。

學年逝き、近日業を卒れる女學生多し、左に之を集錄す、

橫濱フエリス女學校　高等科卒業、星野みつ、平野はま、佐藤てつ。

靑山英和女學校　大竹消、山岡京、山口梅。

明治女學校　本科卒業、千住千代植。

東洋英和女學校　英學科、大竹消、山岡京、山口梅。

十三番女學校　英學科、石川よし尾、今井はつ、綠まさ、松本てい、淸水かれ、大井らく、村井みつ、增田まさ、原さよ、山崎はな、數江ちよ。

神戶英和女學校　高等科、塚本ふじ、木村のぶ、長谷部よね、森しづ、川本さき。本科、成瀨しづ、長瀨さだ、稻石やす、竹友梅代、村山さし、足立かす、鋼中八枝、大澤岸代。

大坂梅花女學校　專科卒業、前神松枝、はんなぎゆりき。英和全科卒業、立石つれ、荒木やす、矢上うた。本邦全科卒業、好本ちゑ、立石ひさ、荒木やす、長島みす、鎌原政、大塚さゐ。

正誤　前號救濟記事、一番町靑年會及婦人矯風會さある婦人矯風會の下に有志者の三字を脫す。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

廢娼記事

●神奈川縣の廢娼難事にあらざる一理

當横濱の廢娼主張論者佐々木笑受郎氏は五月廿九日發刊の讀賣新聞の報知を讀まれ大に感慨する處ありて去月二日縣廳に出頭し知事に面會を求めたりしに折惡しく不在なりきて辭はれ歩を枉げて主務局なる警察本部に出頭し部長に面語せし有樣及び讀賣新聞の報道を記して貴社に送る幸に餘白を賜へば幸甚々々

讀賣新聞は告げて曰く

去る廿一年十二月十三日親諭に據りたる神奈川縣相州横須賀の遊廓大瀧町は市中の中央に在りて不都合尠からざるに依り同縣廳にては同町に貸坐敷建築を禁ぜられ之れに代ゆるに全町より十六七町隔りたる豊島村字佐野柏木内に換地を許可せられたるに貸坐敷營業者は同地は實に山間僻地にして往來の不便なるのみならず飲料水に乏しく將來營業に見込なきを以て横須賀に接續し山貝ひ水に望みて天然の區畫を爲す米ヶ濱の埋地へ轉換せられ度旨昨廿八日貸坐敷營業者戸田兵助外五名が總代となり縣廳へ請願書を出せし上知事に面會を求めし由、云々

佐々木笑受郎氏と警部長高橋仲次氏

佐々木氏は受附の案内に依り應接所に待つこと殆んど十五分にして高橋氏出で來り來意を問ふ則ち佐々木氏は自身の廢娼論者なることを告げつゝ讀賣新聞紙の記載を示して事實の如何及び事實なりせば如何に指令すべきやを尋ねしに高橋氏は新聞紙およそ二三回も閲讀したらん頓て數少の誤謬あるも其事の實なるを語り尚ほ曰ふ此文面には柏木へ轉地の儀願に因て許可せられたる如く記載しあれども來廿一年來の事や縣令にして則ち以來横須賀の遊廓地は佐野柏木とす規定したるものにして願に因て云々と云ふにあらず而して此縣令を布きしや決して偶然にあらず官大に見る所あればなり然るに今更天然の區畫を爲す米ヶ濱へ轉換したしと願出でたりとて許可すべき理由なし之れを許可すべくんば始めより此縣令は違せざりしなり故に其願書は今尚ほ余が手下にあれども要する所却下すべきものたるなりと於是佐々木氏は高橋警部長の廢娼運動上に傾むべき人なるを解得したるもの如く喜悦の情を滿顏に表し短簡に公娼の廢せざるべからざるを說き、廿一年末の縣令の爲めに該營業者の心配を起さしめしは廢娼運動に一歩を加へたるものにして國家の爲めに賀すべきものなるを辨じ進んで此願書に許可の指令を與へは廢娼運動の一歩を退かしむるものにして則ち樓主を喜ばしめて國家を憂へしむるものたるを演べて飽くまで許可ならんを求めたり次に氏は言を嗣いで市中に散在するの俗に所謂「チヤブ」屋と唱へ白晝も尚ほ淫を鬻ぐ酒店につき問ふて曰く閣下も知る如く當市中到る處吾人廢娼論者の眼を痛ましむる「チヤブ」屋は何の法律に因て取り締らるゝや聞く如くんば洋酒小賣規則に因るものと其規則の如何は兎も角此店中に遊ふものは日本人にあらずして皆外國人なりと去らば國家の汚辱を受くる直接の關係あるものにあらずや知られざるにあらざる此有樣を取り締るに洋酒小賣店規則を以てするは寛に過ぐるにあらずやと警部長高橋氏は之れに至りて音調に精や力を加へ實に君の言の如し豈に獨り君等廢娼論者耳之れを憂ふるにあらん官分大に配慮しつゝあるなり故に之れを取り締る規則の草案は已に出來しあれども六ケ敷ざ之れを實行するさ云ふ場合に至れば自然現行法律上に大なる關係を惹ぜばあらざれば數問題として未た實施にまで運ばず然れども斯くて打捨て置くべきにあらざれば早晩布達の都合に至るべし先づ夫れ迄は警吏の見當り次第（賣淫の實など）處罰する位のものなり況に角杞憂に忍びざる振舞あれば此儀には捨て置かじ……君亦國家の爲めに大に爲す所あれ云々

右二氏の談話

に因りて案ずれば神奈川縣警部長高橋仲次氏は大ひに吾人廢娼論者と意を同ふし目的を一にするものにあらざるなきや去れば吾人々民の内に十人の義人ありて同心協力此事に力を致さば豈に神奈川縣の廢娼決して難事ならんや神奈川縣廣からずと雖ども人口多からずと雖ども十人の義人なくしてアブラハムを泣かしめしソドム、ゴモラならんや。

（横濱青年會書記）

女報

○御旅行　常宮、周宮兩殿下は去る一日御出發にて避暑の爲日光へ御旅行あらせられたる由。

○大井幸子　婦人談話會員たりし同子は不屆の事あるとの由にて會長景山英子より退會を申付けたる由。

○神戸英和女學校　は今期より更に改良を施さる由にて同校教員兩夜ひさ子は京濱間各女學校視察の用を帶て上京せり。

○京阪間三女學校　即はち神戸英和女學校、大坂梅花女學校、同志社女學校の三つは連合の協議整のひ、高等科に達したる女生は終りに神戸に行くこととなりたる由。

○スタンレー氏の佳偶　スタンレー氏は有名の畫工テンナント孃に婚することなれり、其盛き國民新聞に露出したり。

○難波佛教婦人會　大坂難波別院に發會式あり會長は伏見宮文秀女王殿下なりきぞ。

○アライト、ルーカス夫人　の傳はヘッス氏の手に成り十三錢にて倫敦フヘッターレーン十四番ヒチチ、ポツター氏方にて賣捌く。

○女子獨立學校　は此期より更に地所を買増し生徒の製作品を廣く賣捌くの手段を爲し一層擴張すと云ふ。

○櫻井女學校及四十二番女學校　の二つは合して女子學院となりしが此迄は尚は校名を別にしたる處ろ此度愈よ眞に合併することとなれり。

○チーストラリヤの女醫　ロザ、コルシユボーム夫人は濠洲に入つて某病院に醫師を務むる由、婦人にして同洲に醫者たるは夫人を以て始めとなすと

○エー、エム、リツチヤールド孃　ニウヨークにて開きたる米國中の中學校より出品せし博覽會に於てリツチヤード孃は一等賞を得たり、是孃の手になりし畫が婦人の作にて一等なりし故なりと云ふ

週報

○官令　三日勅令第百十五號にて海軍監獄則の改正同百十六號にて富岡製糸所官制の改正同百十七號にて出雲大社神職の件を裁可公布せらる●四日勅令第百十八號を以て陸軍乘馬本分の將校へ官馬拂下の件を裁可公布せらる●五日勅令第百十九號にて北海道廳官制の改正同第百二十號にて陸軍砲兵工科學舍條例を裁可公布せらる

○宮廷　一日天皇陛下内閣へ臨御あらせらる●七日天皇陛下樞密院へ臨御あらせられたり

○政治　一日内閣會議に山縣、山田、松方、大山、後藤、青木、樺山、芳川、陸奥の各大臣參集せり同日衆議院議員選舉結了す●三日山縣、山田、松方諸大臣登閣せり●四日各大臣登閣して會議を開けり同日伊藤伯參内す●七日山縣、西郷、山田、松方、青木、樺山、芳川、陸奥の八大臣登閣せり

○衛生　七日内務省に於て中央衛生會を開けり

○新誌　五日濃飛日報發行停止を命ぜらる

○内報　去る三十日佐渡相川の貧民數百名蜂起暴動せり

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

東洋英和女學校廣告欄

本校の學期は豫科三箇年本科四箇年にして別に二箇年に涉る高等科の設あり入學生は寄宿生百三十五名通學生百名を限とす毎科受持の敎員孰れも熟達善良あり然して本校の敎授は實に完全なりとの世評を獲んとは本校の希圖する所あり規則書等御入用の御方は校長宛に御照會を乞ふ

麻布區鳥居坂十四番地　**東洋英和女學校**

交詢案內

（催促する勿れ郵券十錢送れ委細に申來れ）

●雇ひたき方　（甲）

二一	中働	年齡廿五才にして一ト通り裁縫の出來るものを一圓以上の給金にて雇ひ度處あり
二五	召使	十二才以上の小女にて實直なるものを給料一圓にて雇入度處あり
二七	小女	年齡十二三才にして少しづゝ勉强の出來る御宅に無給にて小間使に雇ひ度ものあり

●雇はれたき方　（乙）

二四	奉公	年齡廿二才にして一さ通り裁縫もいたし氣輕の生れつきにて華族樣か中以上の官員方へ中働きに奉公いたし度し給金は壹圓以上に願ひたし
二五	裁縫	裁縫は重らに婦人洋服にて和服にも巧なり學校若しくは華族其他高貴の御內に敎師に雇れたし
二八	奉公	普通小學科卒業の者にて（年齡二十二才）產婆業を營まるゝ基督信徒の家に無給にて雇はれ餘暇に產婆術を學び度ものあり
二九	奉公	年齡十四歲にて基督敎信徒の家（可成は西洋人）に雇はれ度ものあり尤も普通食料小使仕着等一切持參致すに付き毎日四五時間英語學の修業致したし
三五	奉公	年齡十五才の高等小學卒業生にして餘暇に勉學の出來候御宅へ雇はれ度ものあり但し給料は望みなし
三六	歌師	數寄屋橋內東京唱歌會卒業生にして何れの學校にても唱歌の敎師に雇はれたし但し年齡廿才にして給料は何程にても宜し
三七	奉公	毎日三四時間勉强の出來る女學校又は中以上の官員の御宅へ無給にて雇はれたきものあり
三八	召使	身元證ある十三才の小女にして堅き御內へ小間使に雇はれたし但し餘暇に算筆を敎授せらるれば給金に望なし
三九	奉公	年齡十五才にて身元證なるものあり官員の御宅又は堅き御內へ小間使に雇はれたし但し給金は先樣次第にてよろし

廣告

●〇脚氣患者諸君よ左の〇●

廣告を讀んで世に名灸有るを知り玉はんことを

●官許專門 天下無比 かつけ根切灸點術●

附言輕症は一二度如何ある重病と雖ども四五度限り全治受合〇灸治効能男女を論せずかつけは勿論膝より下の冷て痛む病に大効ある事受合論より證據實驗あれ〇當時拙家近邊に類似の家號名乘る同業者出來たるに付番地家號篤と御注意の上陸續御來車あれ

京橋區本材木町三丁目二十一番地松屋橋通り　**壽福堂**

社告

歌題

第二回懸賞和歌募集廣告

我社先きに第一回懸賞和歌を募集し大に世人の注意を惹きぬ世上幾多の淑女諸君が秀詠を寄せられし事は誠に我社の榮のみならず、女學の爲め賀すべき所とす、今更に第二回懸賞歌題を揭け、愈女界に和歌の隆盛あらん事を計る、願くは世の淑女諸君續々御秀詠を寄せられん事を

〇歌題　夏山家　水邊晩涼

〇七月二十五日〆切〇第一等賞女學生半年分〇第二等賞婚姻論一冊〇第三等賞猫と鼠一冊〇一題につき一人一首に限る　〇撰者池袋清風大人

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

遞信省認可

カロ減順氣散（かげんじゅんきさん）

定價四錢五厘 振出しぐすり

婦人血の道子宮より發る的病男女

四季感冒頭痛其他効能は包書に委し

本家 東京日本橋通一丁目 須原屋 北畠茂兵衛

私立 **國民英學會** 神田區錦町一丁目十二番地

我國民英學會ハ去ヌル明治廿一年二月始テ開會セリ而ソ創立者ノ目的ハ當時一般ノ學風虚飾ヲ事トソ實用ニ適セス善クペンサーノ社會學ヲ解シ得ルモ親戚朋友ニ時候見舞ノ書牘ヲ送ルハ能ハズ善クミルノ經濟書ヲ講シ得ルモ商賣掛引ノ挨拶ヲ知ラサル者滔々皆是也之ヲ名ケテ片輪ノ英學者ト云フ豈國家ノ爲メニ慨歎セサル可ンヤ今我々ハ是等ノ弊風ヲ矯正センカ爲メニ此國民英學會ヲ開キタリ故ニ其目的ハ實用的切ノ英語學ヲ主トシ兼テ高尙ノ英文學ヲ敎ルニ在リ而ソ其敎授法ハ正則ノ妙ト譯讀ノ便ヲ折衷シタレハ迂遠ニ流レス高尙ニ失セス多ク修學ノ時日ヲ費サスソ其造詣スル所ハ却テ他校ヨリ深シトス殊ニ諸事鄭重懇切ヲ主トシテ敎員中漫リニ欠席スル者ナク師弟ノ間柄藹然トソ和氣盈テリコレ本會ノ特色ナリトス

教頭 博言學士 イーストレーキ

幹事 磯邊彌一郎

林學生星野愼著

昆蟲 植物 金石 採集法

定價拾五錢十四日發賣

小形ポケット用、假名附き圖入り、表紙彩色美裝、八十ページ餘

暑中休暇は採集の好季なり、此季前に近し 學想ある少年、旅行、散策する時、温雅の女生、庭園山水に逍遙する時、虫を捕へ植物を集め、若くは岩を見、土を識らまくするの案内者として、又**朋友知己への歸省の土産物として**、此美麗な、小形な、有益な、廉價な、此氣の利きたる書物現はれたり、其「昆虫界」には虫の變り方、虫の別け方、採り方、殺し方、正則の刺し方、貯へ方、送り方、養ひ方等、其「植物界」には日本各植物帶の樹木の名別け、富士山植物帶の高さ、枝の見分け、葉の種類、花の壓し方、臘葉の作り方、標本の躰裁等、其「金石界」には金石の名分け、岩の類別け、土の別ち、石、岩の現はれ方、見分け方、碎き方、送り方、土の分析法、土の採り方、地層、地質の觀測法、等此他採集携帶一切の道具等、其重もなるもの斯の如し、愉快多望の暑中休暇來らんとす、ア、何ぞ一本を購はざる。

明治廿三年七月

女學雜誌社發兌

明治二十三年七月十一日印刷
明治二十三年七月十二日出版

東京麹町區富士見町二丁目一番地
發行所 女學雜誌社

編輯兼發行人 東京麹町區富士見町二丁目一番地寄留 巖本善治

印刷人 東京神田區三崎町壹丁目十三番地寄留 森田豐

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

かげんじゅんきさん
加減順氣散

定價四錢五厘

振出しぐすり

婦人血の道子宮より發る的病男女

四季感冒頭痛其他効能は包書に委し

本家　東京日本橋通一丁目　須原屋　北畠茂兵衛

私立
國民英學會
神田區錦町一丁目十二番地

我國民英學會ハ去ヌル明治廿一年二月始テ開會セリ而ソ創立者ノ目的ハ當時一般ノ學風虚飾ヲ事トソ實用ニ適セス善クスベンサーノ社會學ヲ解シ得ルモ親戚朋友ニ時候見舞ノ書牘ヲ送ルハ能ハズ善クミルノ經濟書ヲ講シ得ルモ商賣掛引ノ挨拶ヲ知ラサル者滔々皆是也之ヲ名ケテ片輪ノ英學者ト云フ豈國家ノ爲メニ慨歎セサル可ンヤ今我々ハ是等ノ弊風ヲ矯正センカ爲メニ此國民英學會ヲ開キタリ故ニ其目的ハ實用的切ノ英語學ヲ主トシ兼テ高尙ノ英文學ヲ敎ルニ在リ而ソ其敎授法ハ正則ノ妙ト譯讀ノ便ヲ折衷シタレハ迂遠ニ流レス高尙ニ失セス多ク修學ノ時日ヲ費サスソ其造詣スル所ハ却テ他校ヨリ深シトス殊ニ諸事鄭重懇切ヲ主トシテ敎員中漫リニ欠席スル者ナク師弟ノ間柄藹然トソ和氣盈テリコレ本會ノ特色ナリトス

敎頭　博言學士　イーストレーキ

幹事　磯邊彌一郎

林學生星野愼著

昆蟲
植物
金石
採集法

定價拾五錢十四日發賣

小形ポケット用、假名附き圖入り、表紙彩色美裝、八十ページ餘

暑中休暇は採集の好季なり、此季前に近し學想ある少年、旅行、散策する時、溫雅の女生、庭園山水に逍遥する時、虫を捕へ植物を集め、若くは岩を見、土を識らまくするの案内者とし て、又朋友知己への歸省の土產物として、此美麗な、小形な、有益な、廉價な、此氣の利きたる書物現はれたり、其『昆虫界』には虫の變り方、虫の別け方、採り方、殺し方、正則の刺し方、貯へ方、送り方、養ひ方等、其『植物界』には日本各植物帶の樹木の名別け、富士山植物帶の高さ、枝の見分け、葉の種類、花の壓し方、腊葉の作り方、標本の躰裁等、其『金石界』には金石の名分け、岩の類別け、土の別ち、石、岩の現はれ方、見分け方、碎き方、送り方、土の分析法、土の採り方、地層、地質の觀測法、等此他採集携帶一切の道具等、其重もあるもの斯の如し、愉快多望の暑中休暇來らんとす、ア、何ぞ一本を購はざる。

明治廿三年七月

女學雜誌社發兌

明治二十三年七月十一日印刷
明治二十三年七月十二日出版

東京麴町區富士見町二丁目一番地
發行所　女學雜誌社

編輯兼發行人　東京麴町區富士見町二丁目一番地寄留　巖本善治

印刷人　東京神田區三崎町壹丁目十三番地寄留　森田豐

遞信省認可